

鳥栖市埋蔵文化財調査報告書第 85 集

内 畑 遺 跡

2 0 1 6
鳥 栖 市 教 育 委 員 会

鳥栖市埋蔵文化財調査報告書第 85 集

内 畑 遺 跡

共同住宅建設・宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 6

鳥栖市教育委員会

序

鳥栖市は、脊振山地の東端部の九千部山を最高所としてなだらかに傾斜し、九州最大の大河、筑後川に面した緑と水豊かな内陸都市です。この地域は、古来より現代まで九州の交通の要衝として発展してきました。そのため、貴重な文化財が数多く存在しています。

本書は、共同住宅建設と宅地分譲に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施した、鳥栖市元町に所在する内畑遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査区周辺には、江戸時代に集落が形成されていたことが絵図資料に記されており、今回の調査でもその一部が確認されています。

本書を通じて、地域の文化財に対して一層のご理解をいただき、また、学術文化の向上に寄与するものであれば幸いに存じます。

最後になりますが、開発と文化財保護との調整にご理解とご協力をいただきましたアウラス管理株式会社、あさひエステートはじめ関係者の皆様、そして発掘作業や整理作業に従事された方々に厚く御礼を申し上げます。

平成 28 年 3 月 31 日

鳥栖市教育委員会

教育長 天野 昌明

例 言

1. 本書は、共同住宅建設・宅地造成に伴い実施した、鳥栖市元町に所在する内畑遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成 26 年 5 月 7 日～平成 26 年 7 月 24 日、整理報告は平成 27 年 5 月 7 日～平成 28 年 3 月 31 日に、アウラス管理株式会社（共同住宅用地）とあさひエステート（宅地造成用地）の委託を受けて鳥栖市教育委員会が実施した。
3. 出土遺物の整理を含む報告書作成作業は、鳥栖市牛原町文化財整理室で行った。
 - ・遺構実測 杉岡俊昭・河原まゆみ
 - ・遺物復原 松崎友子・毛利よし子
 - ・遺物実測 松崎・毛利
 - ・製 図 大庭敏男
 - ・遺物写真 大庭
4. 遺構実測は、(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託し、一部を作業員が行った。空中写真は、(有)空中写真企画に委託した。
5. 本書の執筆・編集は、大庭が担当した。

凡 例

1. 本書で報告する調査地区は、共同住宅建設地を 3 区、宅地造成のうち道路用地を 4 区とした。
2. 遺跡の略号は、内畑遺跡（TUC）である。
3. 遺構名は、遺構の種別を表す分類記号は次のとおりである。
SD：溝 SH：住居 SK：土坑
4. 遺構図に用いた方位は、国土座標第Ⅱ系の座標北である。
5. 測定値の表示に用いた単位は、遺構m、遺物 cm を原則としている。
6. 遺構一覧表で示した計測値は、+は残存値を表す。
7. 遺物一覧表で示した計測値は、()は復原値、< >は残存値を表す。
8. 遺構・遺物写真、遺構・遺構実測図は、鳥栖市牛原町文化財整理室に保管する。

本文目次

第1章 調査の概要	1
I. 調査に至る経緯	1
II. 調査の組織	1
第2章 地理的環境・歴史的環境	2
I. 地理的環境	2
II. 歴史的環境	2
第3章 調査の内容	5
I. 遺跡の概要	5
II. 3区の調査	5
III. 4区の調査	13
第4章 まとめ	27

挿図目次

図1 内畑遺跡周辺地図 (1/10,000)	2
図2 周辺位置図 (1/5,000)	3
図3 内畑遺跡 3、4区遺構配置図 (1/350)	4
図4 SH3003・SH3004・SH3005・SH3007・SH3009 (1/60)	6
図5 SK3002・SK3006 (1/40)	7
図6 SD3001 出土遺物 (1/3)	9
図7 住居跡・土坑・ピット出土遺物 (1/4、1/3)	10
図8 SD4017 (1/80)、断面図・土層図 (1/40)	13
図9 SH4002・SH4005・SH4007 (1/60)	14
図10 SH4010・SH4014 (1/60)	15
図11 SH4022 (1/60)、SK4001・SK4003・SK4004・SK4009・SK4012・SK4013 (1/40)	16
図12 SK4006・SK4015・SK4016 (1/40)	17
図13 SK4011 (1/40)	18
図14 SD4017 出土遺物 (1/3)	20
図15 住居跡出土遺物 (1/4・1/3)	21
図16 土坑出土遺物 (1/4・1/3)	22
図17 土坑・ピット出土遺物 (1/4・1/3)	23

表目次

表1 内畑遺跡 3区遺構一覧	8
表2 内畑遺跡 3区遺物一覧	11～12
表3 内畑遺跡 4区遺構一覧	19
表4 内畑遺跡 4区遺物一覧	24～26

写真図版目次

- 写真図版 1 1. 3, 4区全景(西上空から) 2. 3, 4区全景(南上空から)
- 写真図版 2 1. 3区全景(南から) 2. 3区全景(北上空から)
- 写真図版 3 1. SD3001(北から) 2. SD3008・SH3009(南から) 3. SH3003(東から)
4. SH3004(手前)・SH3005(奥) 5. SK3002土層(東から)
6. SK3002土層(南から) 7. SK3002(東から) 8. SK3006(南から)
- 写真図版 4 1. SD3001出土遺物 2. SH3003出土遺物 3. SH3004出土遺物
4. SH3007出土遺物 5. SH3009出土遺物 6. SK3002出土遺物
- 写真図版 5 1. 4区全景(北上空から) 2. 4区弥生時代集落集中部(西から)
- 写真図版 6 1. SD4017遺物出土状況(東から) 2. SD4017(西から)
3. SD4017黄色粘質土検出状況(南から) 4. SD4017土橋部(?)土層(南西から)
5. SH4002(西から) 6. SH4005(北東から) 7. SH4007(北東から)
8. SH4010(西から)
- 写真図版 7 1. SH4014(南西から) 2. SK4002(北から) 3. SK4003(南東から)
4. SK4004(西から) 5. SK4006(北東から) 6. SK4013(左)・SK4012(右)
7. SK4018(西から) 8. SK4019(西から)
- 写真図版 8 1. SK4011(西から) 2. SK4011完掘状況(東から)
3. SK4011床面付近炭化物(西側) 4. SK4011土層(上部、西から)
5. SK4011土層(下部、西から) 6. SD4017出土遺物
- 写真図版 9 1. SD4017出土遺物 2. SH4005、SH4007出土遺物 3. SH4010出土遺物
4. SH4014出土遺物 5. SK4012出土遺物 6. SK4019出土遺物
- 写真図版 10 1. SK4001出土遺物 2. SK4006出土遺物 3. P33出土遺物
4. P36出土遺物 5. P41出土遺物 6、7. P48出土遺物

第1章 調査の概要

I. 調査に至る経緯

調査対象地は、平成19年、20年、24年と、たびたび開発の計画があがり、周知の埋蔵文化財包蔵地であったため、提出された文化財保護法第93条第1項の届出により、確認調査を行った。その結果、弥生時代の遺構、遺物を確認し、協議を行っていた。

平成26年4月11日付で、鳥栖市元町字内畑1092-4の2,850㎡についてあさひエステートより宅地造成の計画、また同日付で、鳥栖市元町字内畑1092-16の1,831㎡についてアウラス管理株式会社より共同住宅建設の計画に伴い、第93条第1項にもとづく届出ならびに埋蔵文化財発掘調査依頼が鳥栖市教育委員会に提出された。過去の確認調査に基づき両者と協議を行ったところ、計画の変更が困難であったため、宅地造成計画地については道路用地を、共同住宅建設計画地については建物用地の発掘調査を実施し、記録保存をすることで合意した。また、それぞれの工期予定により共同住宅用地を先行して発掘調査を行うこととした。これにより平成26年4月30日付でアウラス管理株式会社及びあさひエステートと発掘調査委託契約を締結した。

発掘調査は、平成26年5月7日から7月24日にかけて実施し、出土遺物・調査記録類の整理および調査報告書作成業務は、平成27年5月7日から平成28年3月31日の期間に鳥栖市牛原町文化財整理室において実施した。

II. 調査の組織

発掘調査は、鳥栖市教育委員会が主体となって実施した。組織は、以下のとおりである。

調査主体 鳥栖市教育委員会

※平成27年7月に教育部から教育委員会事務局に組織変更。

教育長 天野昌明

教育部長 園木一博（～平成27年6月）

教育部次長 白水隆弘（～平成27年6月）

教育次長 江寄充伸（平成27年7月～）

生涯学習課長 佐藤敦美

生涯学習課参事 近藤信孝（～平成27年6月）

成富俊夫（平成27年7月～12月）

文化財係長 久山高史

文化財係主査 鹿田昌宏（事前審査・確認調査担当）

向田雅彦・湯浅満暢・島孝寿・内野武史

大庭敏男（発掘調査担当）

調査協力 佐賀県教育庁文化財課

発掘調査作業員 秋好忠義 皆良田憲男 皆良田涼子 刈間節次 河原まゆみ 篠原英雄 杉岡俊昭

直塚功 永淵雄一 原俊昭 松崎友子 山口正樹 檜崎孝子

室内整理作業員 河原まゆみ 檜崎孝子 松崎友子 毛利よし子

第2章 地理的環境・歴史的環境

I. 地理的環境

鳥栖市は、佐賀県の東端部に位置し、北・東・南は福岡県筑紫郡那珂川町・小郡市・久留米市と県境を接し、南北約9km、東西約8kmに広がり、その面積は約71.72km²である。

北には、九千部山(847.5m)を主峰とした山々が南東に向かって傾斜し、東に杓子ヶ峰(312m)、西には城山(494.1m)を経て石谷山(754.1m)、雲野尾峠(400.0m)へ続く。それらの山麓から南へ丘陵が延び、丘陵先端付近には市街地が載る。さらに南には洪積平野が広がり、筑後川にいたる。

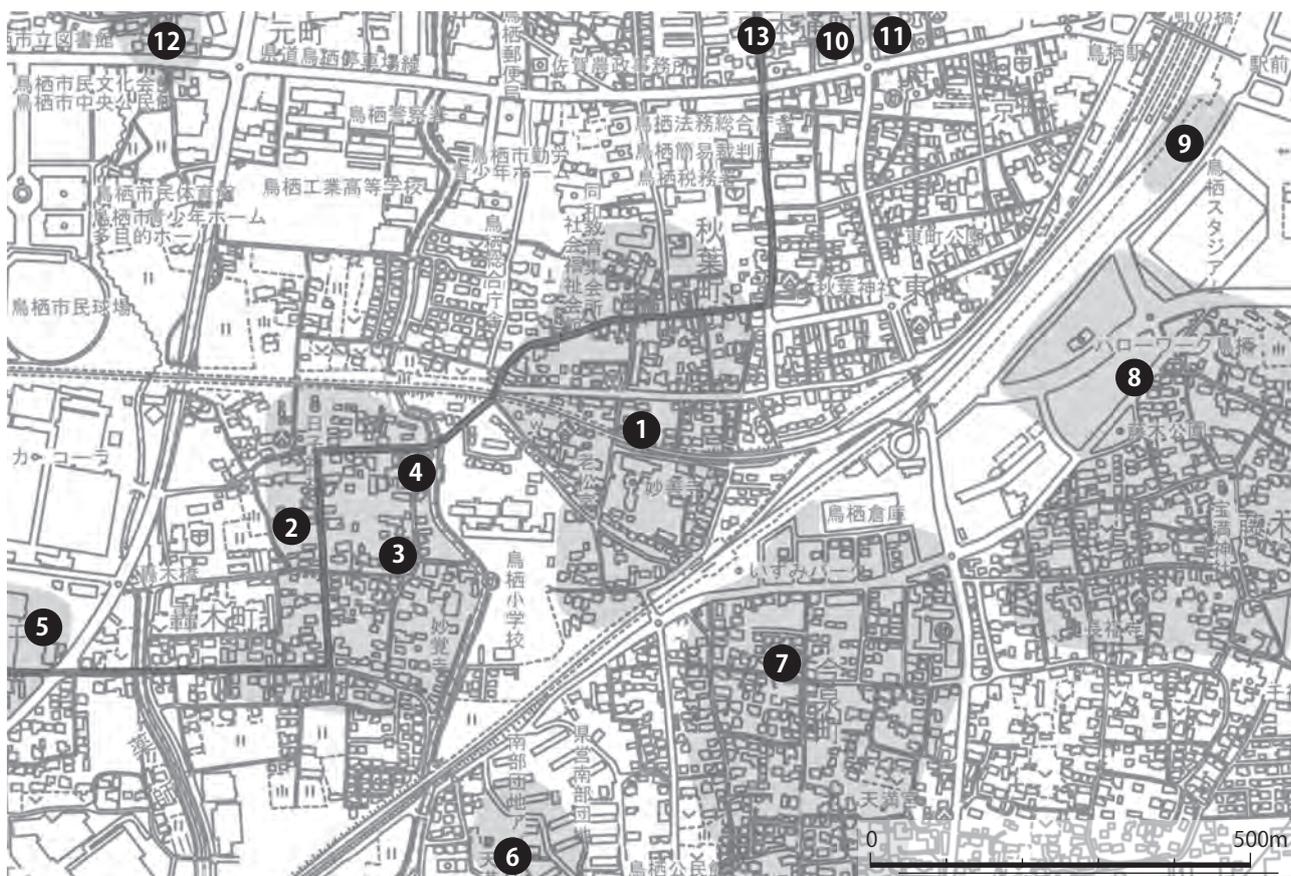
市域を流れる河川は、北の山麓部に源を発し、南流して筑後川に注ぐ。主要な河川は、西から沼川(11.5m)、安良川(10.9m)、大木川(12.5m)そして最も東には秋光川(14.3m)が流れる。

II. 歴史的環境

市内には、旧石器時代～近世にかけて約190の遺跡が確認されている。

旧石器時代では、長ノ原遺跡・平原遺跡・本川原遺跡・牛原原田遺跡・本行遺跡でナイフ形石器や尖頭器、台形石器、角錐状石器が採集されているが、明確な遺構は検出されていない。

縄文時代では、今町共同山遺跡で草創期～早期の刺突文土器、西田遺跡で多数の集石遺構とともに早期の



- | | | | | |
|-----------|---------|----------|--------|----------|
| 1 内畑遺跡 | 2 町屋敷遺跡 | 3 轟木御茶屋跡 | 4 轟番所跡 | 5 二本黒木遺跡 |
| 6 真木宮の前遺跡 | 7 今泉遺跡 | 8 藤木遺跡 | 9 森園遺跡 | 10 西浦遺跡 |
| 11 小原遺跡 | 12 車路遺跡 | 13 旧長崎街道 | | |

図1 内畑遺跡周辺地図(1/10,000)

押型文土器、牛原原田遺跡で前期の曾畑式土器が出土している。平原遺跡では集石遺構 40 基とともに中期の並木式土器が出土している。蔵上遺跡では土器棺墓 41 基・住居跡 10 軒とともに土偶や十字形石器などが大量に出土しており、後期の拠点集落とみられる。村田三本松遺跡で晩期の甕棺墓が検出されている。

弥生時代では、前期までは高位～中位段丘で営まれた生活痕が、中期中頃までには低位段丘に広がり、後期には低位段丘に環濠集落が形成されるようになる。特に、青銅器及び鋳型が出土した安永田遺跡・藤木遺跡・本行遺跡、赤漆玉鈿装鞘銅剣を含む 7 本の銅剣等を副葬する墓地群と祖霊祭祀とみられる大型建物跡や祭祀土坑が検出された柚比本村遺跡は注目すべき遺跡として挙げられる。

古墳時代には、山麓部や高位段丘上に古墳が築造されるようになる。特に 6 世紀代には剣塚・庚申堂塚・岡寺古墳などの大型前方後円墳や田代太田古墳・ヒャーガンサン古墳などの装飾古墳が築造された。しかし、この時代のまとまった集落跡は見つかっていない。

中世では、多くの館跡や町屋跡を確認しているが、特に勝尾城筑紫氏遺跡は、広大な敷地とともに城及び館跡が良好な状態で残っている。

江戸時代には、鳥栖市の東半部と基山町が対馬宗家の領地となり、西半部は佐賀鍋島家の領地となる。このため、鳥栖市には田代宿と轟木宿という藩の異なる宿場町が存在することになる。

本遺跡が所在し、現市街地が載る低位段丘に人の生活が見られるようになるのは、弥生時代中期になってからである。藤木遺跡と内畑遺跡では、甕棺墓を中心とした墓地が造営されるようになる。特に内畑遺跡では、甕棺墓からガラス製勾玉・小玉（1969 点）、鉄刀子、水晶製丸玉・ガラス小玉（16 点）の副葬品が出土している。後期になると藤木遺跡で環濠が検出され、青銅器鋳型が出土している。また、内行花文鏡を割り重ねて頭部に埋置した土壙墓を検出している。

鎌倉時代には、藤木氏、土々呂木氏などの名がみえ、現在の地名とも重なる。また、本町八坂神社の縁起では 1190 年ごろに勧請されたとされ、西浦遺跡や小原遺跡で集落跡が検出されている。

江戸時代には藤木村、今泉村など現在の町区のもととなる集落がすでに形成されており、調査区は瓜生野村（現元町）に当たる。轟木川（番所川）を挟んだ西側には佐賀藩の東端の宿場、轟木宿が成立した。

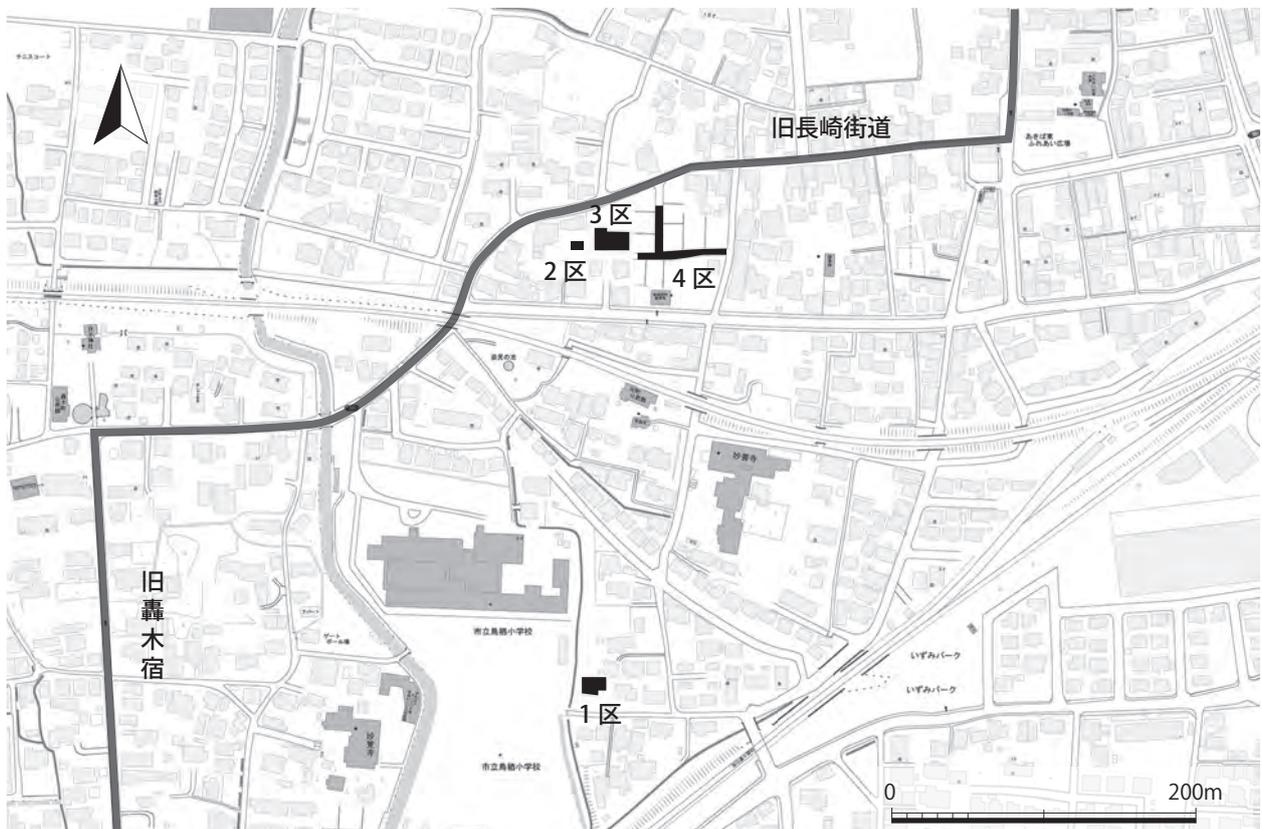


図2 周辺位置図 (1/5,000)

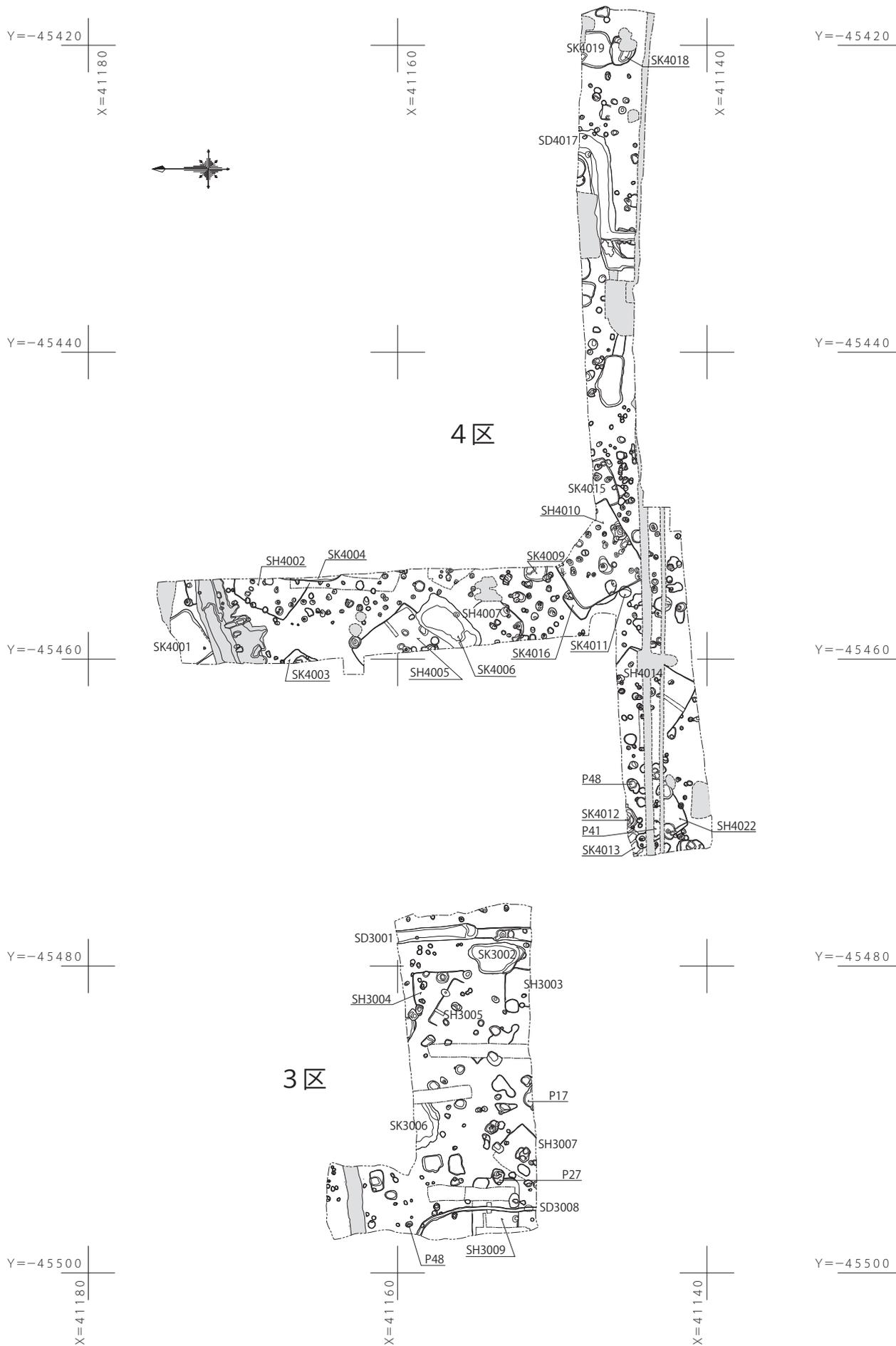


图3 内窑遗迹3、4区遺構配置図 (1/350)

第3章 調査の内容

I. 遺跡の概要

遺跡は、轟木川左岸の低位段丘上の標高 17.5m に立地する。調査区の北側には旧長崎街道が通り、調査区は、近世には瓜生野村と呼ばれる集落の北端に当たる地点である。集落が成立した時期については明らかではないが、遅くとも中世後期から連続して人の生活が営まれたところである。確認調査では、弥生時代と古墳時代の住居跡、土坑、小穴などを確認し、弥生土器と土師器などを採集した。本調査では、弥生時代中期、古墳時代の集落と土坑、近世の溝を検出した。また、近代以降の土管を伴う排水溝を 3, 4 区それぞれの調査区の北側で検出した。

II. 3 区の調査

共同住宅建設用地のうち建物建設部分の約 300㎡を 3 区として発掘調査を行った。遺跡は、現況から約 0.5m 下で遺構を確認した。本調査区では、弥生時代の住居跡 4 軒、土坑 1 基、古墳時代の住居跡 1 軒、土坑 1 基、江戸時代の溝 1 条、時期不明の溝 1 条を検出した。

弥生時代の遺構は、住居跡が SH3003、SH3004、SH3005、SH3007 (図 4) と土坑が SK3002 (図 5) である。住居跡はいずれも深さが 0.1 m 未満と残存状況が悪く、その全体的な平面形は明らかにできなかった。SH3007 では、ほぼ中央に 1.0 m × 0.9 m、深さ 0.3 m の土坑が検出されたが、その性格は明らかではない。

古墳時代の遺構は SH3009 (図 4) と SK3006 (図 5) である。SH3009 は深さ 0.1 m 未満と残存状況が悪く、遺物も土師器片などわずかに出土したのみであった。今回の調査で時期を明らかにすることはできなかったが、SH3009 と重複する SD3008 (図 3) は、幅 0.3 m、深さ 0.1 m で、本調査区では南北に長軸をとる楕円形のようにも見える。しかし、隣接する内畑遺跡 2 区においても同様の断面形状をした溝跡が検出され、その溝は東西に走って調査区外に伸びており、その東端は SD3008 の北端部に接続するようにも見える。2 区の調査ではこの溝を古墳時代としており (『鳥栖市文化財年報』平成 19 年度版 鳥栖市教育委員会 2009 年)、SD3008 の延長とすれば隅丸方形の区画をなす溝の可能性もある。

近世の遺構は、調査区東側で検出した SD3001 (図 3) である。幅は約 0.9m で、延長は調査区内だけで 8.6m であるが、南北の調査区外に伸びており、その延長および平面形状は明らかではない。調査区のほぼ中央に 0.1 m のくぼみが見られた。深さは 0.3 m でかまぼこ形の断面であり、図 6 に示す染付皿や陶器とともに、こぶし大の石礫多数が出土した。出土遺物から、近世後期とみられる。

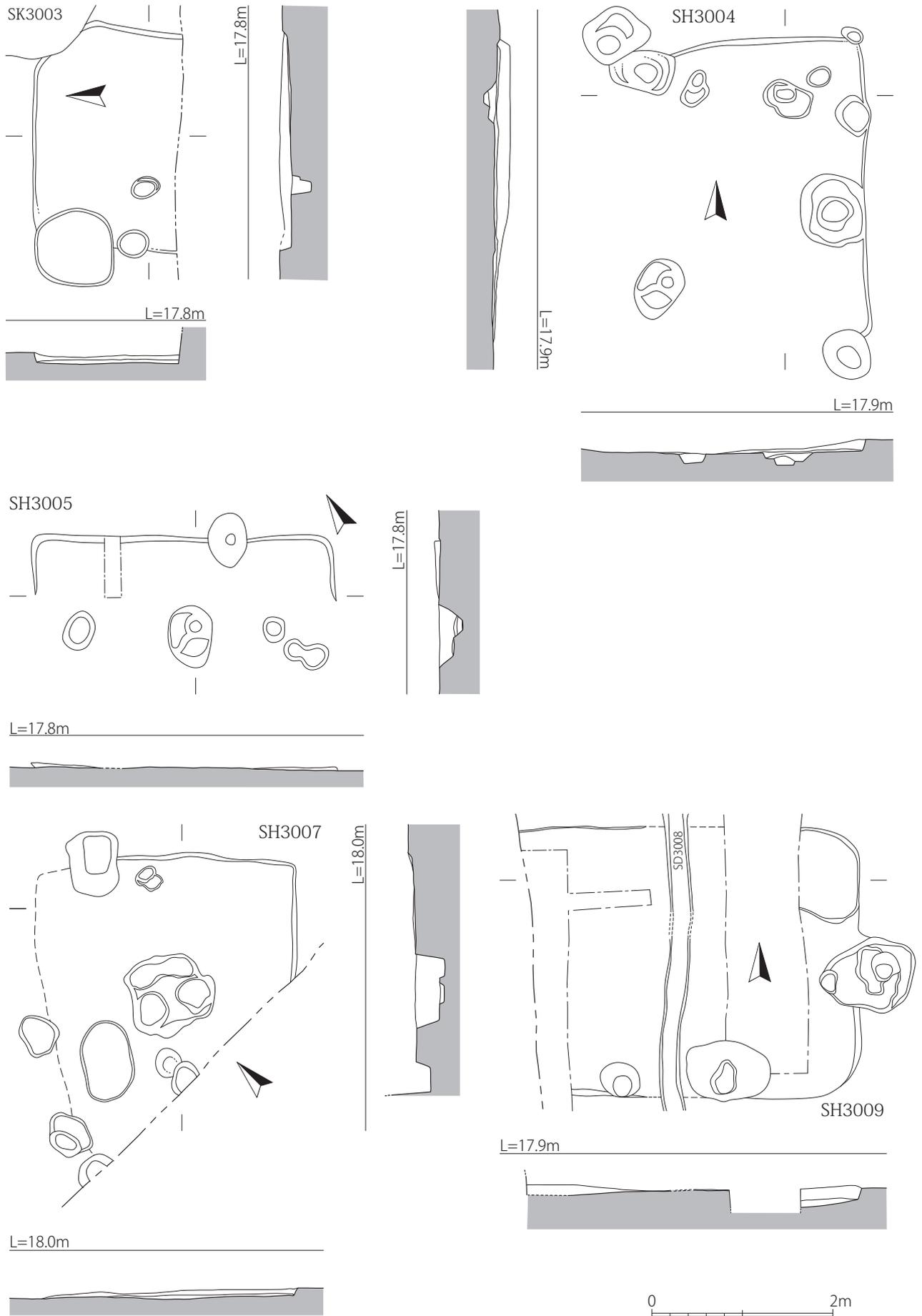


图4 SH3003 · SH3004 · SH30005 · SH3007 · SH3009 (1/60)

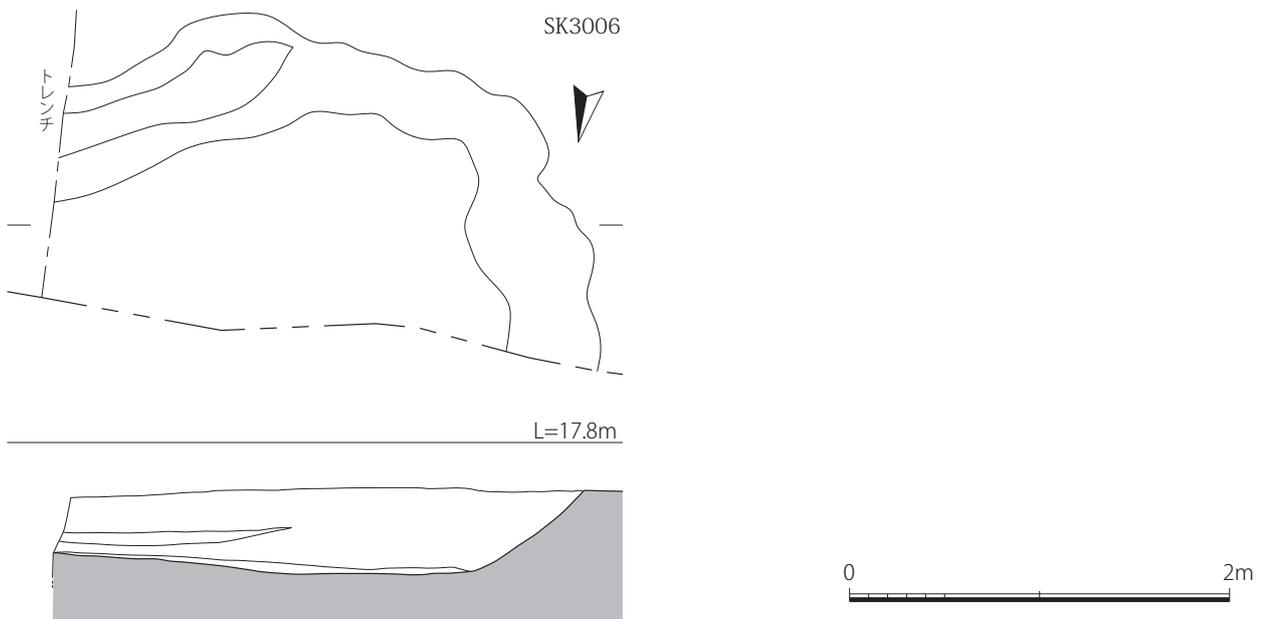
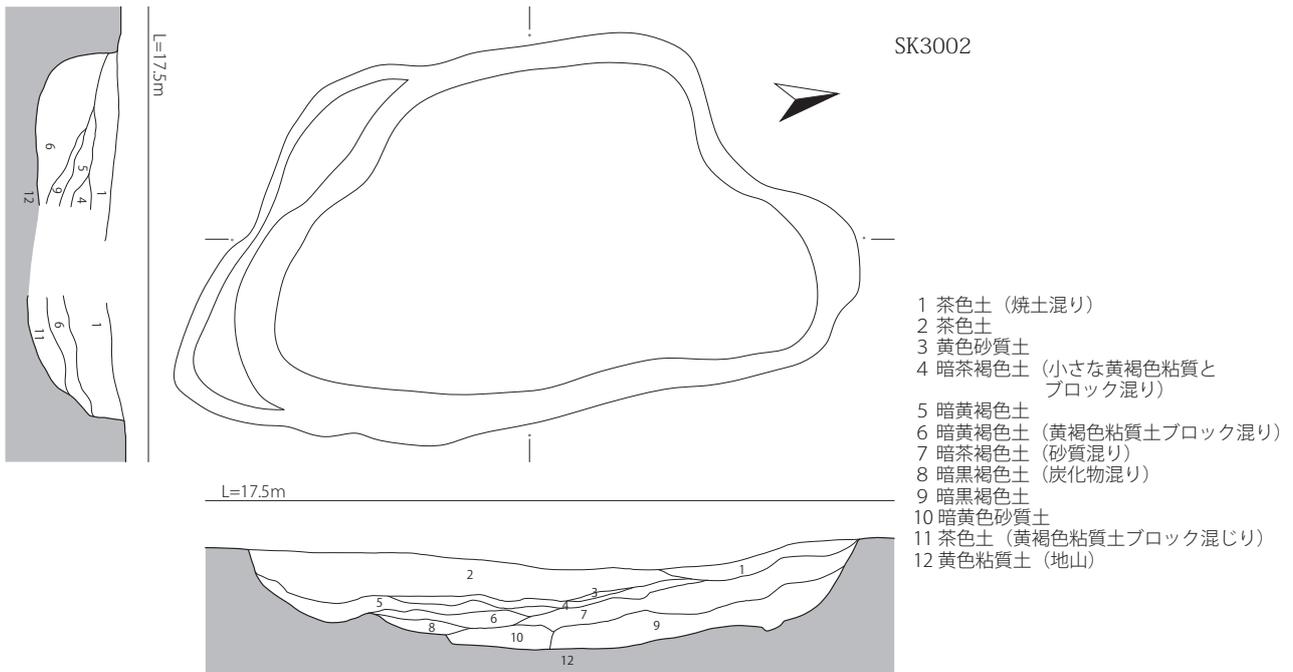


図5 SK3002・SK3006 (1/40)

表1 内畑遺跡3区遺構一覧

遺構番号	挿図番号	形状	規模			新旧関係		出土遺物			時期	備考
			長軸	短軸	深さ	旧	新	土器	石器	その他		
SD3001	図3	—	8.6	0.9		—	—	陶磁器	—	—	近世	こぶし大の隣が多数出土
SD3008	図3	楕円?	8.2	0.3	0.2	SH3009	—	—	—	—	古墳	
SH3003	図4	隅丸方	2.5	1.6	1.0	—	SK3002	弥生土器片	—	—	弥生	
SH3004	図4	隅丸方	3.2	2.1	0.1	—	—	弥生土器片	—	—	弥生	SH3005 との新旧不明
SH3005	図4	隅丸方	3.3	0.7	0.03	—	—	弥生土器片	—	—	弥生	SH3004 との新旧不明
SH3007	図4	隅丸方	3.0	2.9	0.05	—	—	弥生土器片	—	—	弥生	
SH3009	図4	隅丸方	3.3	3	0.1	—	SD3009	須恵器片	—	—	弥生	
SK3002	図5	不整	3.3	2.0	0.59	SH3003	—	弥生土器片	—	—	弥生	
SK3006	図5	楕円?	2.4+ α	0.3+ α	0.4	—	—	須恵器片	—	—	古墳	

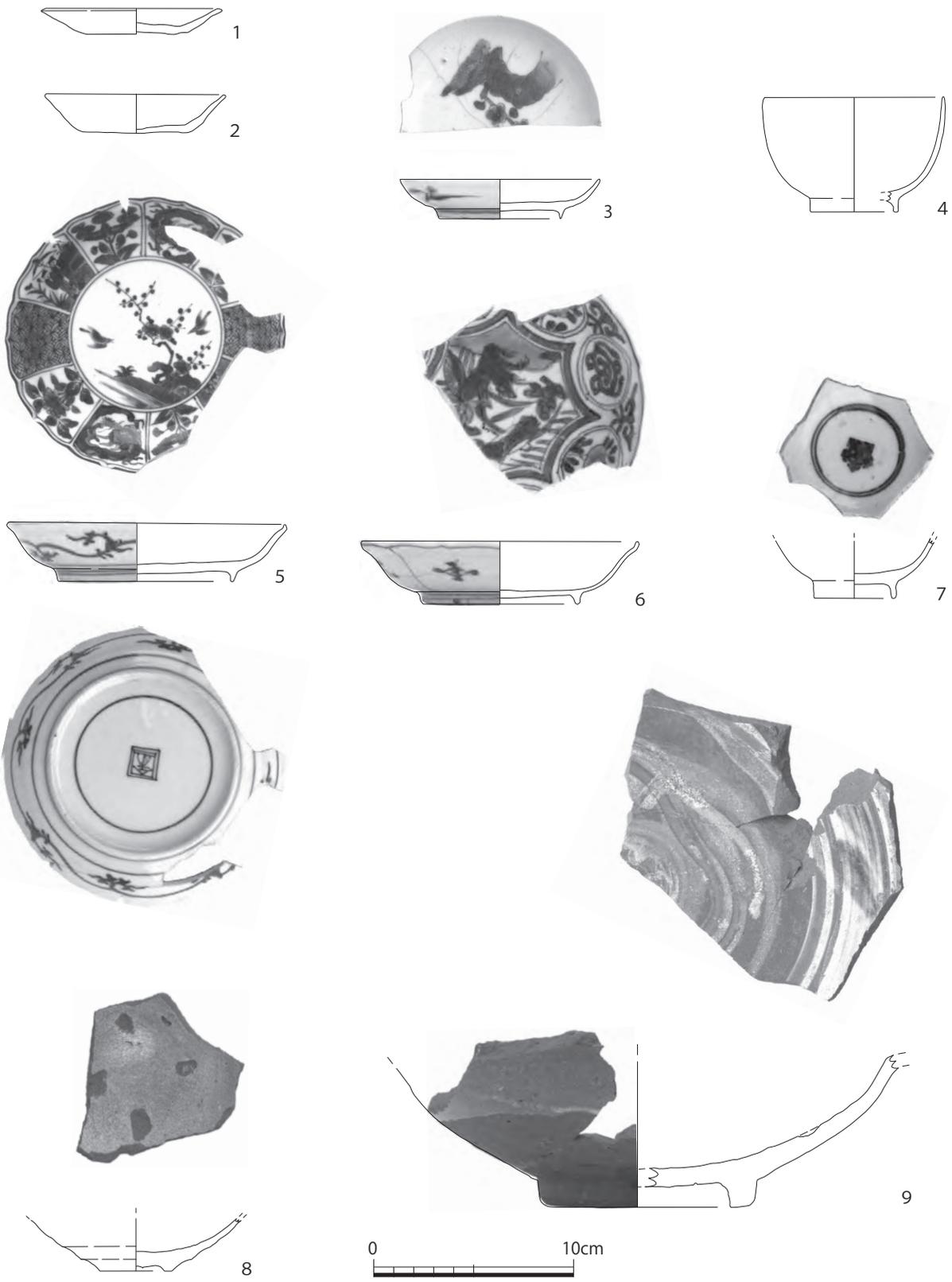


图6 SD3001 出土遺物 (1/3)

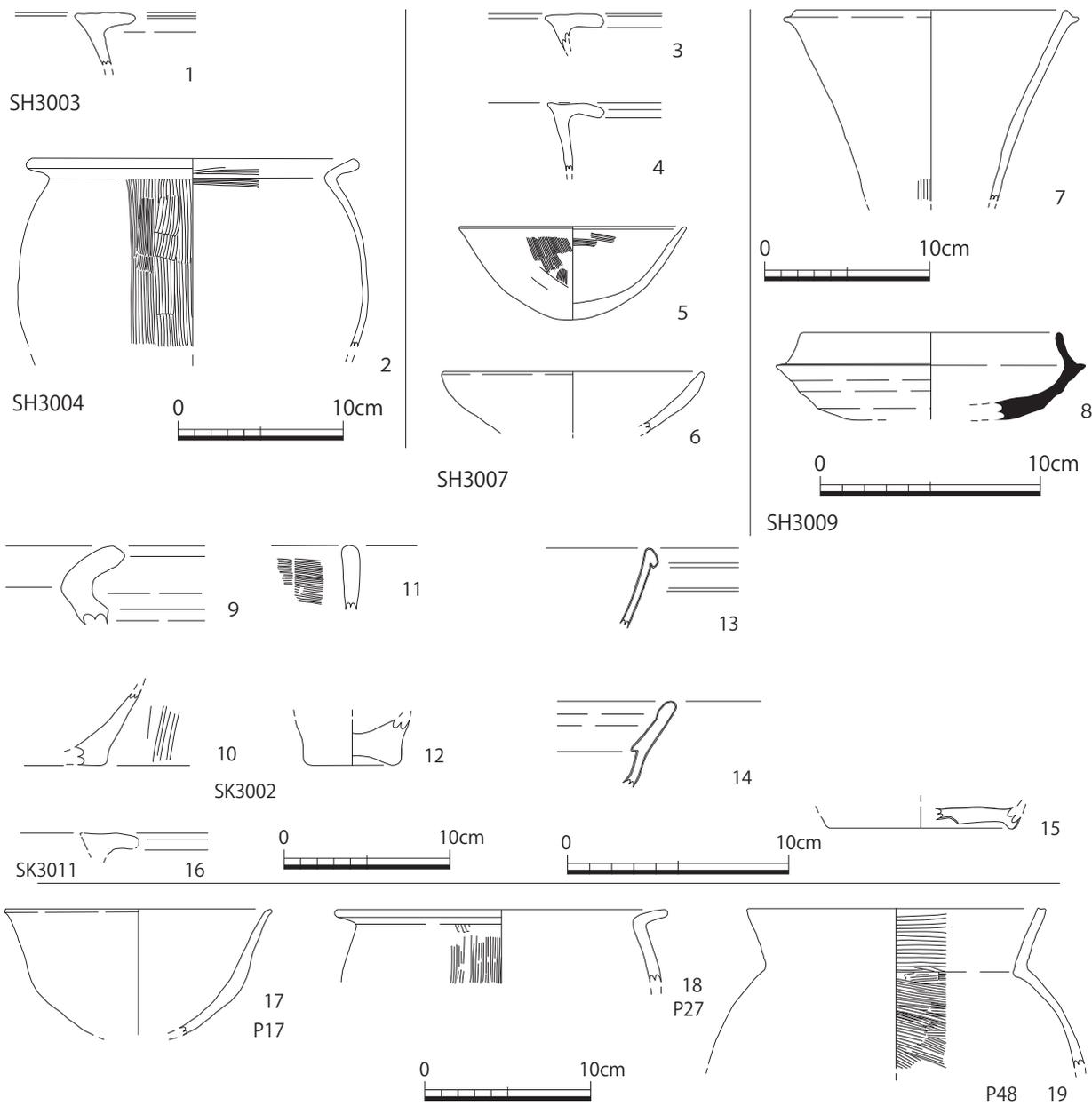


図7 住居跡・土坑・ピット出土遺物 (1/4,1/3)

表2 内畑遺跡3区遺物一覧

番号	遺構	種別	器種	法量		色調 () 内面	調整	備考	登録番号
				口径	器高 底径				
図6-1	SD3001	土師器	皿	(10.0)	1.3 5.2	浅黄橙	外面：回転ヨコナデ、糸切痕 内面：回転ヨコナデ、ナデ	□縁部 1/5 欠損	150161
図6-2	SD3001	土師器	皿	(9.0)	2.0 5.4	浅黄橙	外面：回転ヨコナデ、ナデ 内面：回転ヨコナデ	□縁部 2/3 欠損	150162
図6-3	SD3001	染付	皿	(10.0)	2.0 (6.2)	—	外面：豊付無釉 内面：—	約 1/2 残存	150164
図6-4	SD3001	白磁	椀	(9.0)	5.8 (4.4)	—	外面：豊付釉剥ぎ取り 内面：—	□縁部～底部一部残存	150167
図6-5	SD3001	染付	皿	15.0	3.0 9.6	—	外面：豊付無釉 内面：—	□縁部約 1/3 欠損	150163
図6-6	SD3001	染付	皿	(11.8)	3.2 8.0	—	外面：— 内面：—	□縁 1/5、底部 2/3 残存	150165
図6-7	SD3001	染付	椀	—	<3.0> 4.1	—	外面：豊付無釉 内面：—	底部のみ残存	150166
図6-8	SD3001	陶器	—	—	<2.6> 5.6	—	外面：高台まで施釉 内面：—	底部のみ残存	150168
図6-9	SD3001	陶器	鉢	—	<7.7> (10.8)	—	外面：部分的に施釉 内面：□縁付近施釉	底部～胴部 1/3 残存	150169
図7-1	SH3003	弥生土器	甕	—	<3.2> —	にぶい黄橙色	外面：ナデ 内面：ナデ	—	150178
図7-2	SH3004	弥生土器	甕	(20.2)	<11.5> —	灰黄褐色	外面：□縁ヨコナデ、胴部ハケ 内面：□縁ハケ後ナデ、胴部指ナデ	—	150179
図7-3	SH3007	弥生土器	甕	—	<2.3> —	明黄褐色	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	—	150181
図7-4	SH3007	弥生土器	甕	—	<4.2> —	灰白色	外面：□縁部ヨコナデ、下ナデ 内面：ナデ	—	150183
図7-5	SH3007	弥生土器	鉢	(13.8)	5.7 —	黒褐色 (灰黄褐色)	外面：□縁～胴部ハケ後ヨコナデ、 底部工具ナデ 内面：□縁ハケ、胴～底部ナデ	—	150182
図7-6	SH3007	弥生土器	鉢	(16.0)	<3.7> —	灰黄褐色 (にぶい黄橙色)	外面：指ナデ 内面：工具ナデ	—	150180
図7-7	SH3009	弥生土器	壺	(17.8)	<11.7> —	浅黄橙	外面：ハケ 内面：指ナデ	—	150187
図7-8	SH3009	須恵器	杯身	(12.0)	<4.0> —	灰色	外面：回転ヨコナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ヨコナデ	—	150158

番号	遺構	種別	器種	法量			色調 () 内面	調整	備考	登録番号
				口径	器高	底径				
図7-9	SK3002	弥生土器	甕	—	<4.8>	—	黄白色 外面：ヨコナデ 内面：ナデ	—	150172	
図7-10	SK3002	弥生土器	鉢	—	<4.7>	—	にぶい黄橙色 (灰白色) 外面：ハケ 内面：—	—	150170	
図7-11	SK3002	瓦器	鉢	—	<3.9>	—	褐灰色 (灰黄褐色) 外面：ナデ 内面：ハケ	—	150174	
図7-12	SK3002	弥生土器	甕	—	<2.8>	5.8	橙色 外面：— 内面：ナデ	—	150171	
図7-13	SK3002	白磁	椀	—	<3.7>	—	— 外面：— 内面：—	—	150173	
図7-14	SK3002	白磁	鉢	—	<3.9>	—	— 外面：— 内面：—	—	150175	
図7-15	SK3002	染付	皿	—	<1.0>	(8.4)	— 外面：— 内面：—	—	150176	
図7-16	SK3011	弥生土器	甕	—	<1.0>	—	橙色 外面：ナデ 内面：ナデ	—	150160	
図7-17	P17	弥生土器	鉢	(16.0)	<7.2>	—	橙色 外面：ナデ、口縁ヨコナデ 内面：ナデ、口縁ヨコナデ	—	150186	
図7-18	P27	弥生土器	甕	(20.0)	<4.4>	—	橙色 外面：ハケ、口縁ヨコナデ 内面：ナデ	—	150189	
図7-19	P48	弥生土器	壺	(18.0)	<9.7>	—	黄橙色 (黒色) 外面：ハケ、口縁ナデ 内面：ハケ	—	150191	

Ⅲ. 4区の調査

宅地造成用地のうち道路建設部分約 500m²を4区として発掘調査を行った。遺跡は、南側と西側の深いところで現況から約 0.8m 下で、東側の浅いところで現況から 0.2m 下で遺構を確認した。道路部分の調査であり、幅 5m の T 字型をした細長い調査区の設定であり、現代の上下水道の埋設や近代以降の攪乱が多かったことから、全体像を把握するのは難しかったが、周辺の集落の在り方を示唆するものであった。本調査区では、弥生時代の住居跡 4 軒、土坑 7 基、古墳時代の住居跡 1 軒、江戸時代の溝 1 条、土坑 2 基、時期不明の住居跡 1 軒、土坑 3 基を検出した。

弥生時代の遺構は、住居跡が SH4002・SH4005・SH4007 (図 9)・SH4010 (図 10) と土坑が SK4001・SK4009・SK4012・SK4013 (図 11)・SK4011 (図 13)・SK4015・SK4016 (図 12) である。住居跡は、SH4002 からは弥生土器片が出土しているが、詳細な時期を判別できるものはなかった。また、SH4002・SH4005・SH4007 は残存高 0.1 m 前後で良好ではなく、全体の平面形状を検出することはできなかった。SH4010 は 0.3m 程度の残存があるが、柱穴は明らかではない。SK4011 は SH4010 に切られるが、深さ 2.6m で断面形が首の長いフラスコ状である。底面の形状は不整の円形で、中央付近に平石 3 点が出土した。また、下部の広がった壁には植物性炭化物が周囲におかれている状況が見られた。遺物の出土はないが SH4010 に切られるため、弥生時代のものと判断した。

古墳時代の遺構は、SH4014 のみを検出した。深いところで残存高 0.1 m ほどであり平面形状を明らかにすることはできなかった。

近世の遺構の SD4017 (図 8) は、幅が 2.4m で深さは 1.2m である。西端がやや浅く 0.6 m の残存である。東西約 8 m の溝は東端で北方向へ、西端で南方向へ屈曲する。図 8 に示すとおり西端の残存が浅い部分に一定の範囲で固くしまった黄色粘質土が床面付近で確認できた。何らかの施設的なものがあった可能性もあるが、柱穴等が検出できなかったため、性格は明らかではない。また、この溝跡からの遺物の出土は東西のほぼ中央付近に集中してみられ、またこぶし大の石も多数出土した。

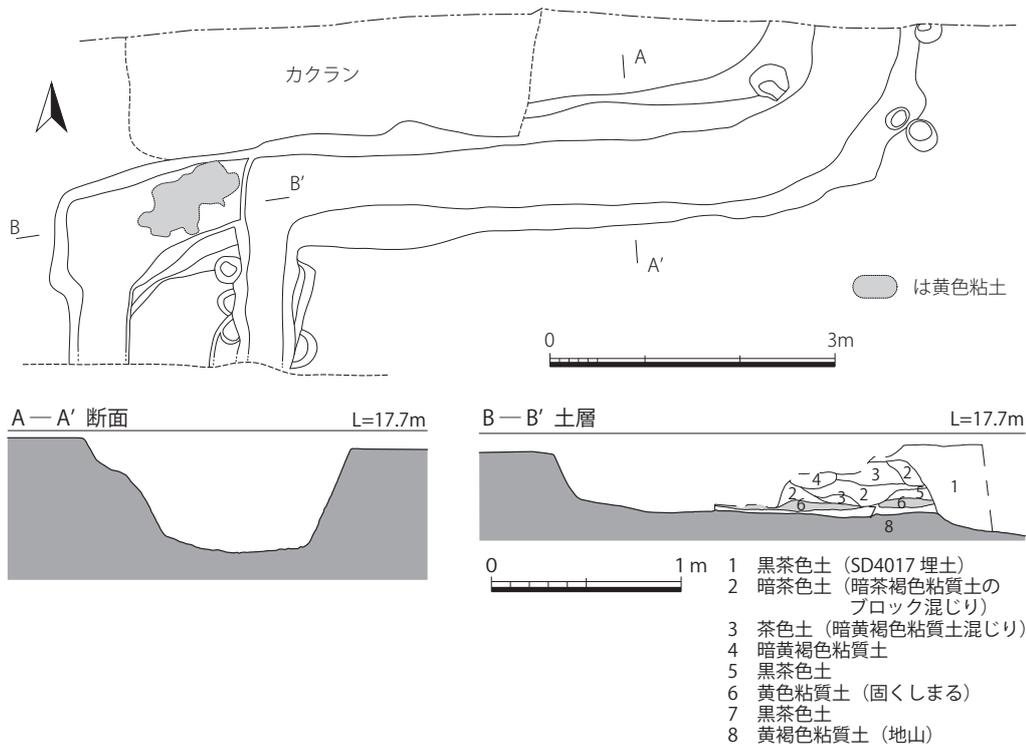


図 8 SD4017(1/80)、断面図・土層図 (1/40)

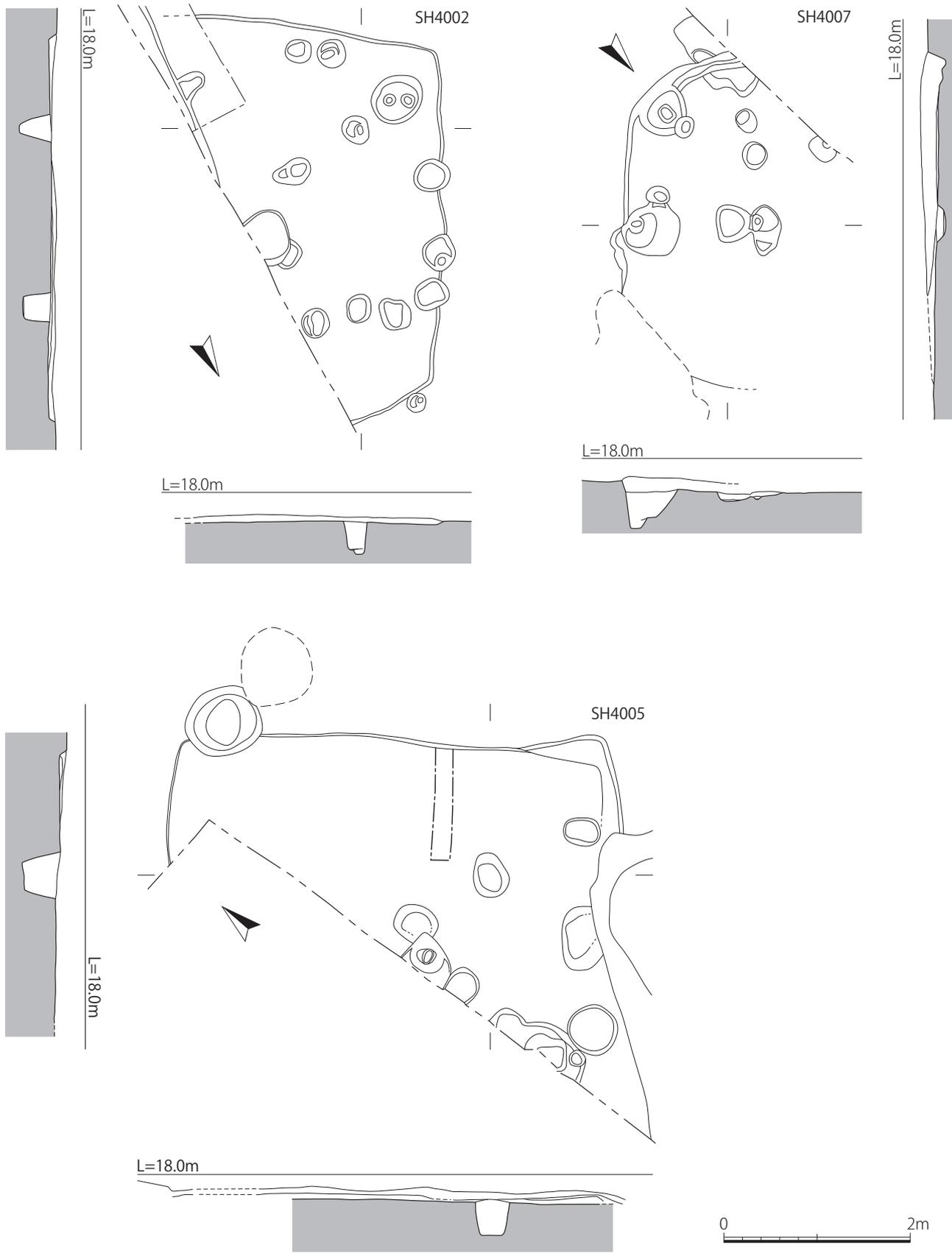


图 9 SH4002 · SH4005 · SH4007 (1/60)

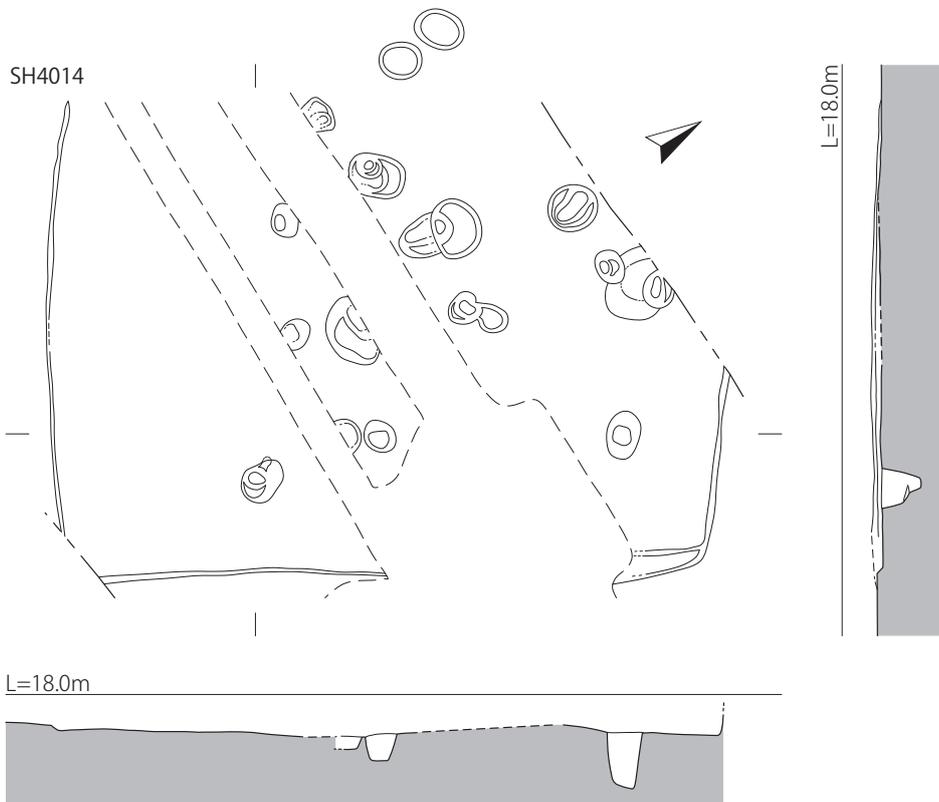
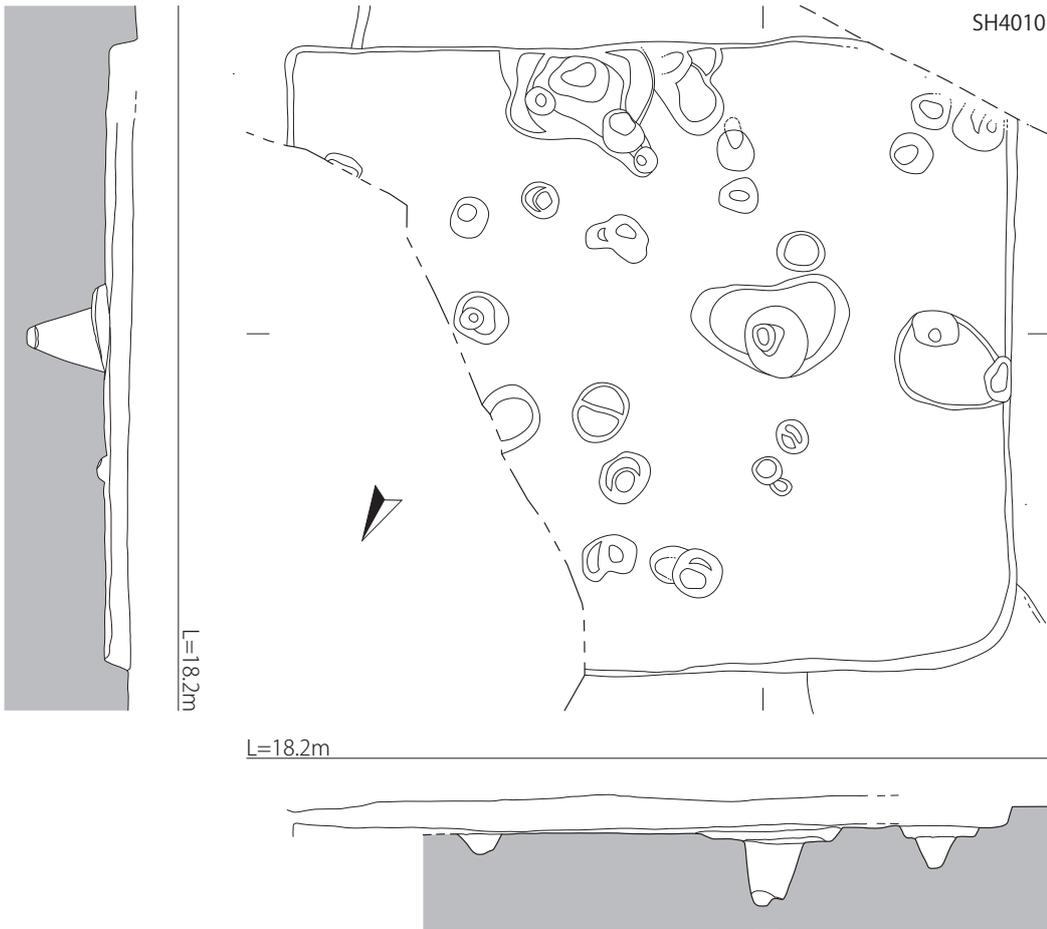


图 10 SH4010 · SH4014 (1/60)

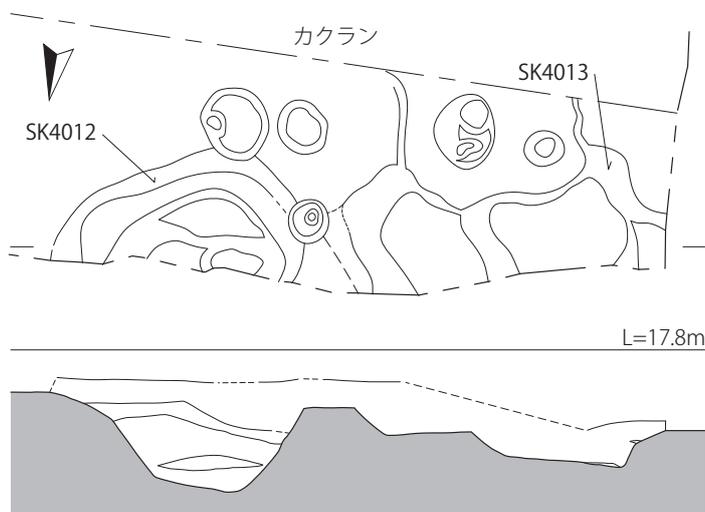
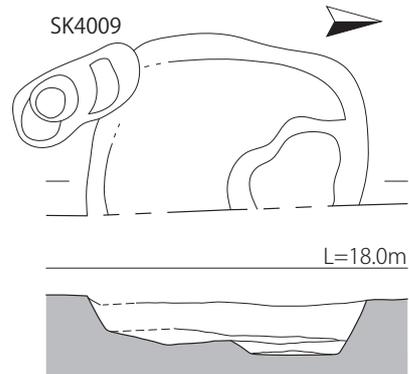
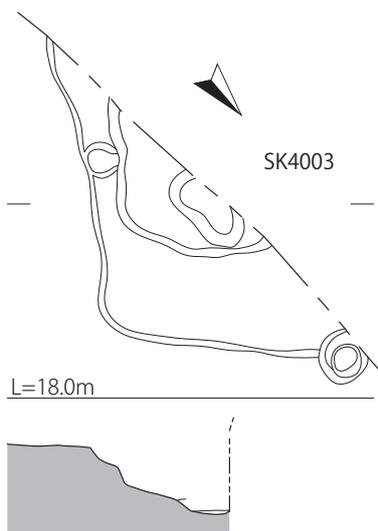
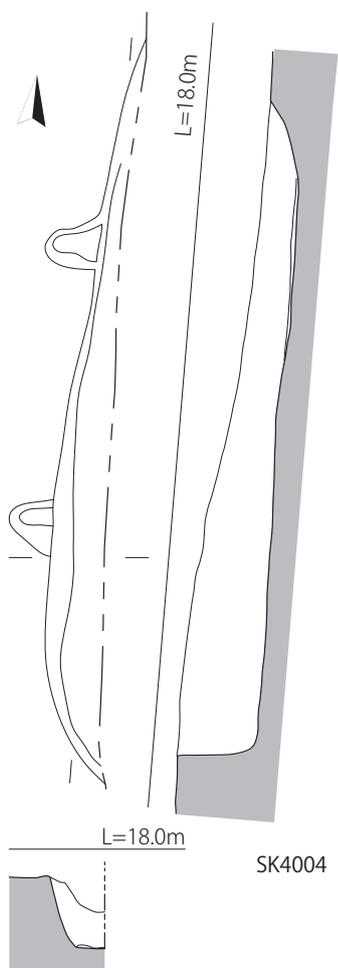
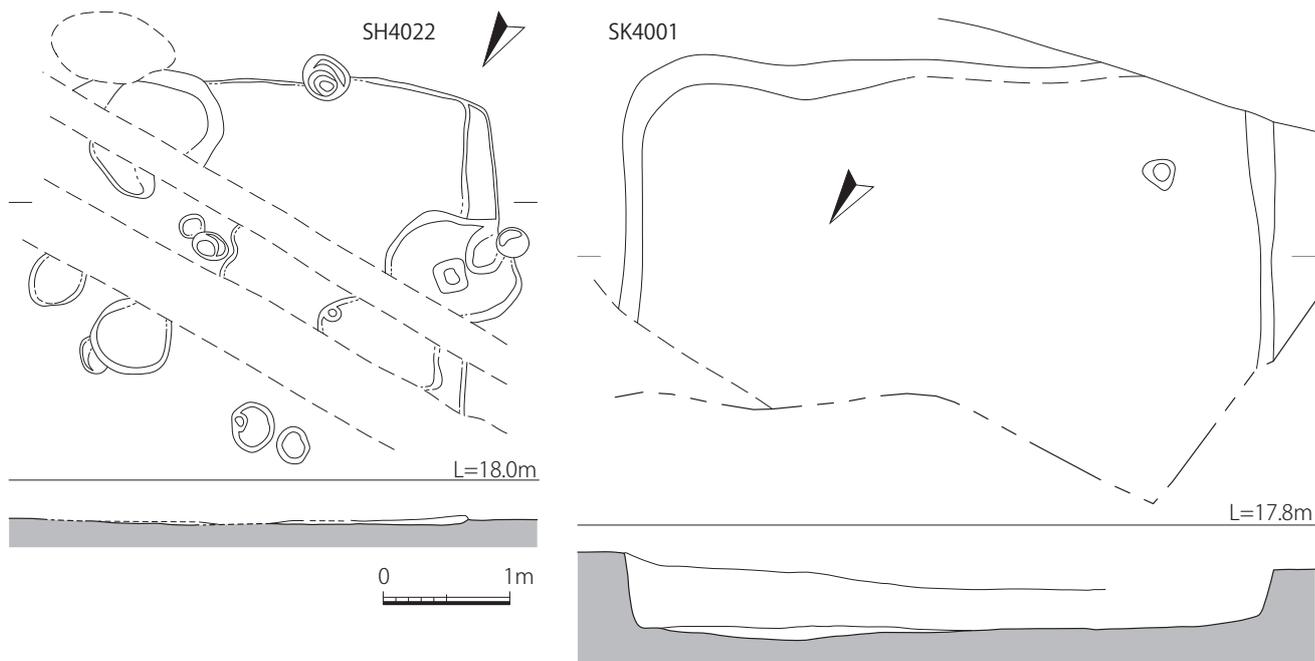


図 11 SH4022 (1/60)、SK4001・SK4003・SK4004・SK4009・SK4012・SK4013 (1/40)

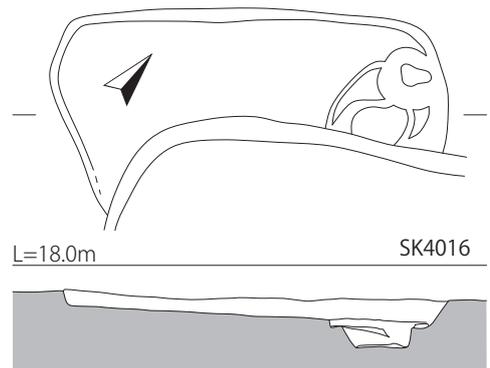
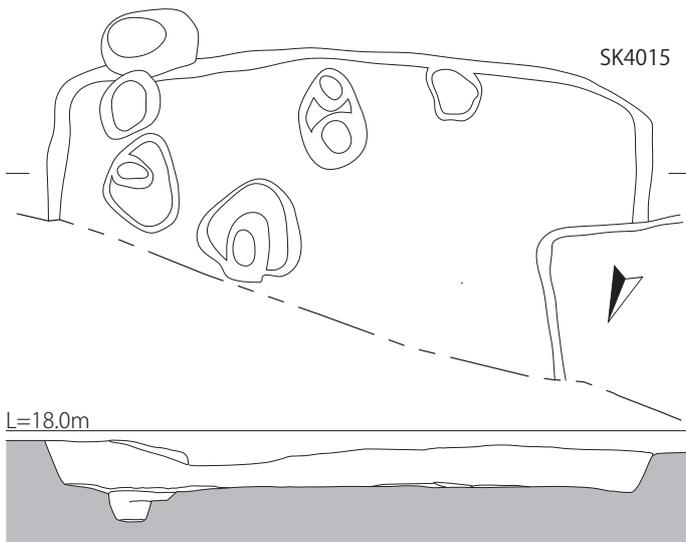
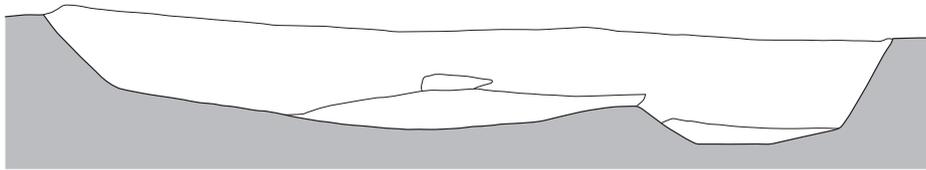
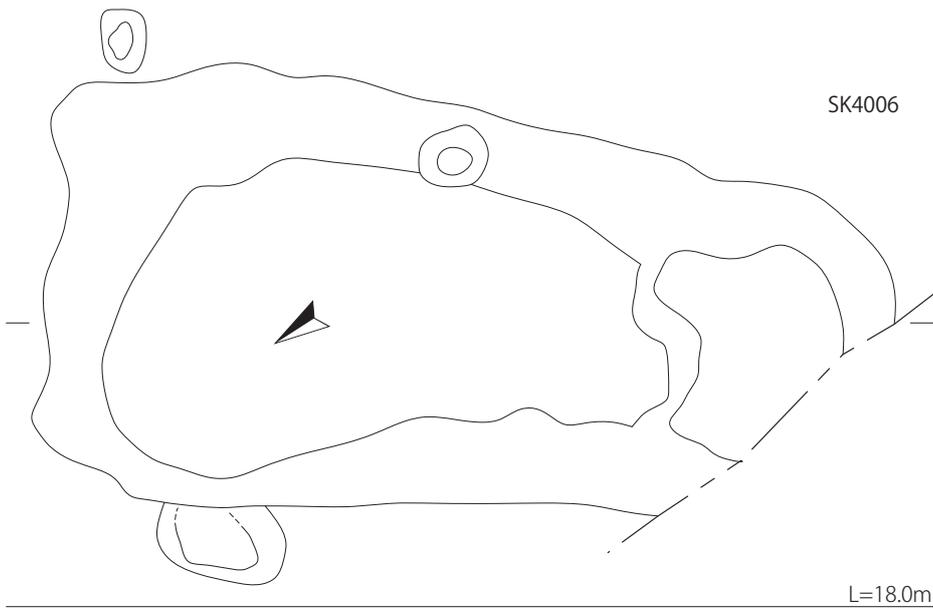
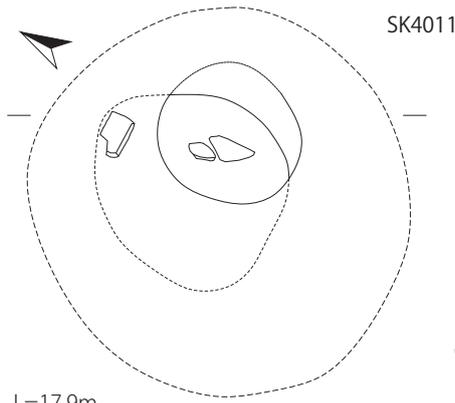
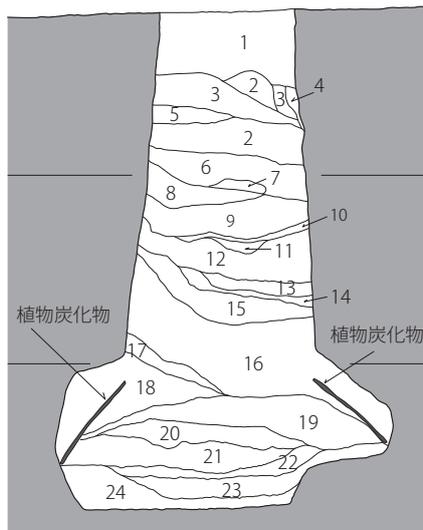


图 12 SK4006 · SK4015 · SK4016 (1/40)



L=17.9m



- 1 暗茶褐色土 (黄褐色粘質土の小粒混じる)
 - 2 暗黄褐色土 (黄褐色粘質土混じる)
 - 3 明褐色土
 - 4 黒茶色土
 - 5 茶色土
 - 6 黄褐色土
 - 7 黄褐色粘質土ブロック
 - 8 暗黄褐色土
 - 9 暗黄褐色土 (黄褐色粘質土ブロック少量混じる)
 - 10 暗黄褐色土
 - 11 黒茶色土
 - 12 黒茶色土 (黄褐色粘質土ブロック混じる)
 - 13 暗茶褐色土 (黒色粘質土ブロック混じる)
 - 14 暗茶褐色土 (黄褐色粘質土小粒混じる)
 - 15 明茶褐色土
 - 16 暗茶褐色土 (黄褐色粘質土小粒混じる)
 - 17 茶色土
 - 18 暗茶褐色土
 - 19 暗茶色土 (黄褐色粘質土ブロック混じり)
 - 20 暗茶色土 (黄褐色粘質土大ブロック混じり)
 - 21 茶色土
 - 22 暗茶褐色土
 - 23 暗黄褐色粘質土
 - 24 灰褐色砂質土
- (地山) 上層 茶色土・明黄色土
下層 黄白色砂質土

図 13 SK4011(1/40)

表3 内畑遺跡4区遺構一覧

遺構番号	挿図番号	形状	規模			新旧関係		出土遺物			時期	備考
			長軸	短軸	深さ	旧	新	土器	石器	その他		
SD4017	図8	鍵	10.3	1.31	0.58	—	—	—	—	—	江戸後期	
SH4002	図9	方形	4.15	3.28+	0.04	—	—	弥生土器片	—	—	弥生時代	SK4004 との新旧不明
SH4005	図9	方形	4.66	3.61+	0.14	—	—	鉢、甕	—	—	弥生中期後半	
SH4007	図9	隅丸方	3.38	1.38+	0.1	—	—	—	—	—	弥生中期後半	
SH4010	図10	隅丸方	5.82	5.12	0.29	SK4011 SK4015 SK4016	—	壺、鉢、器台	—	—	弥生後期前半	
SH4014	図10	方形	5.25	3.92	0.12	—	—	須恵器 杯蓋	—	—	古墳	
SH4022	図11	方形	3.39+	2.58+	0.04	—	—	—	—	—	—	
SK4001	図11	隅丸方	3.4	1.8+	0.41	—	—	甕、鉢	—	—	弥生中期後半	
SK4003	図11	方形?	1.67+	1.55+	0.41	—	—	—	—	—	—	
SK4004	図11	—	3.98+	.29+	0.36	—	—	—	—	—	—	SH4002 との新旧不明
SK4006	図12	隅丸長方	4.44+	2.16	0.55	SH4005 SH4007	—	弥生土器 土師器 須恵器	—	—	—	遺構重複の可能性あり
SK4009	図11	隅丸方?	1.41+	1.0+	0.29	—	—	甕、鉢	—	—	弥生中期後半	
SK4011	図13	円	0.78	0.72	2.65	—	—	—	—	—	—	断面形はフラスコ状、 床面平面形は円形、井戸か
SK4012	図11	—	1.35+	1.02+	0.55	SK4013	—	器台 猿形土製品	—	—	弥生	
SK4013	図11	—	1.59+	0.77+	0.19	—	—	弥生土器	—	—	弥生	
SK4015	図12	隅丸長方	3.18	1.71+	0.24	—	—	弥生土器	—	—	弥生	
SK4016	図12	隅丸長方	2.05	1.1+	0.12	—	—	—	—	—	弥生	
SK4018	図3	不整	1.7+	1.58	0.35	SK4019	—	染付	—	—	近世	
SK4019	図3	不整	2.38	2.08+	0.3	—	—	染付	—	—	近世	

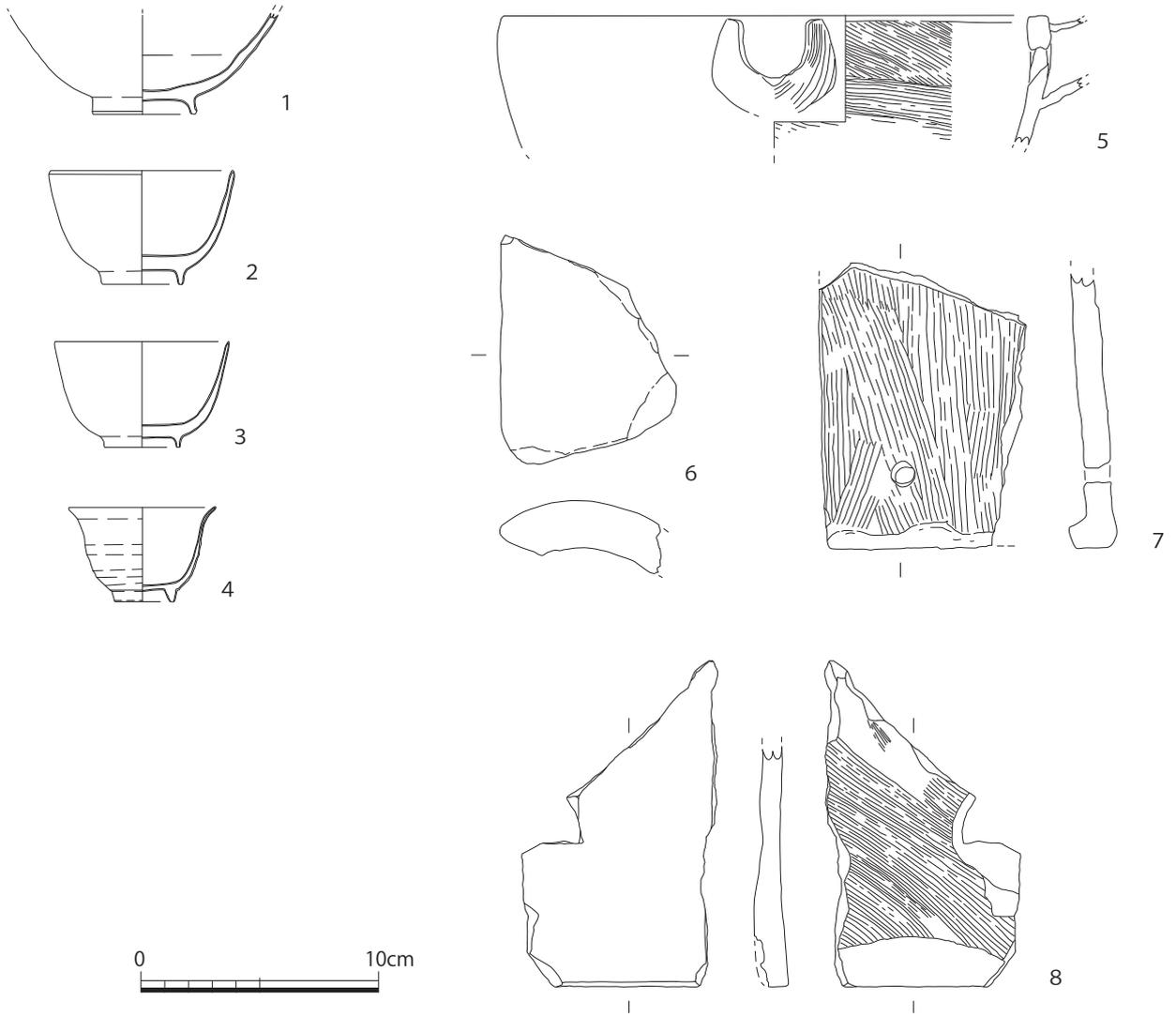


图 14 SD4017 出土遺物 (1/3)

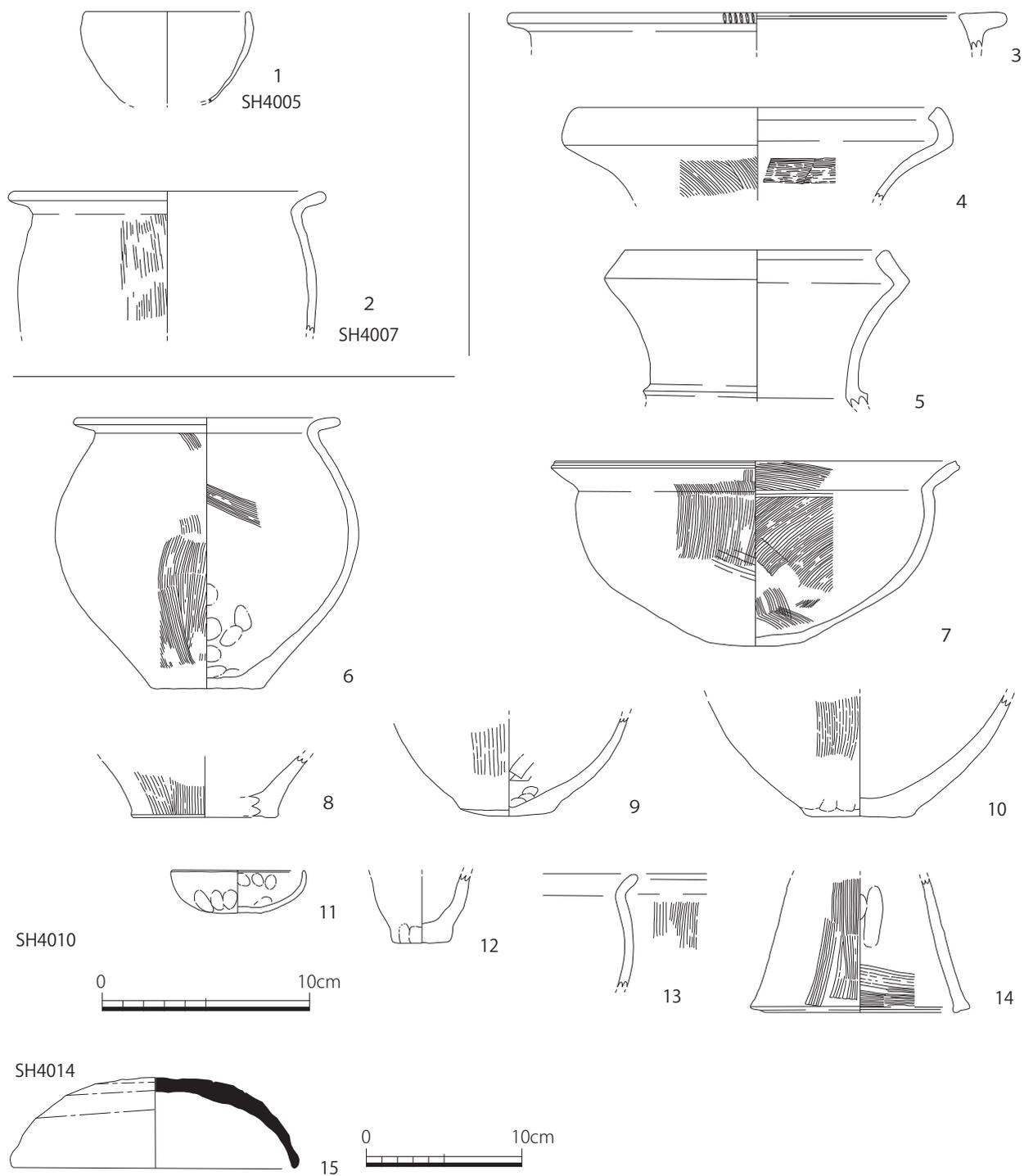


图 15 住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

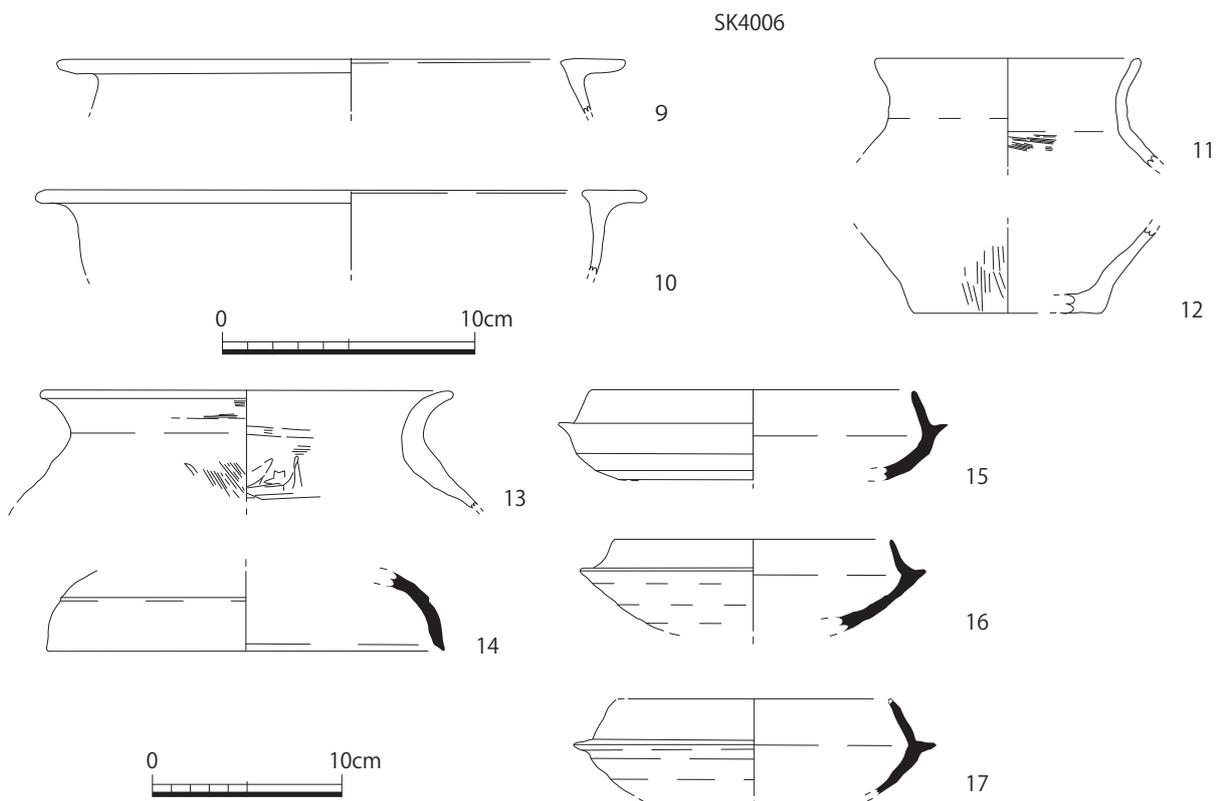
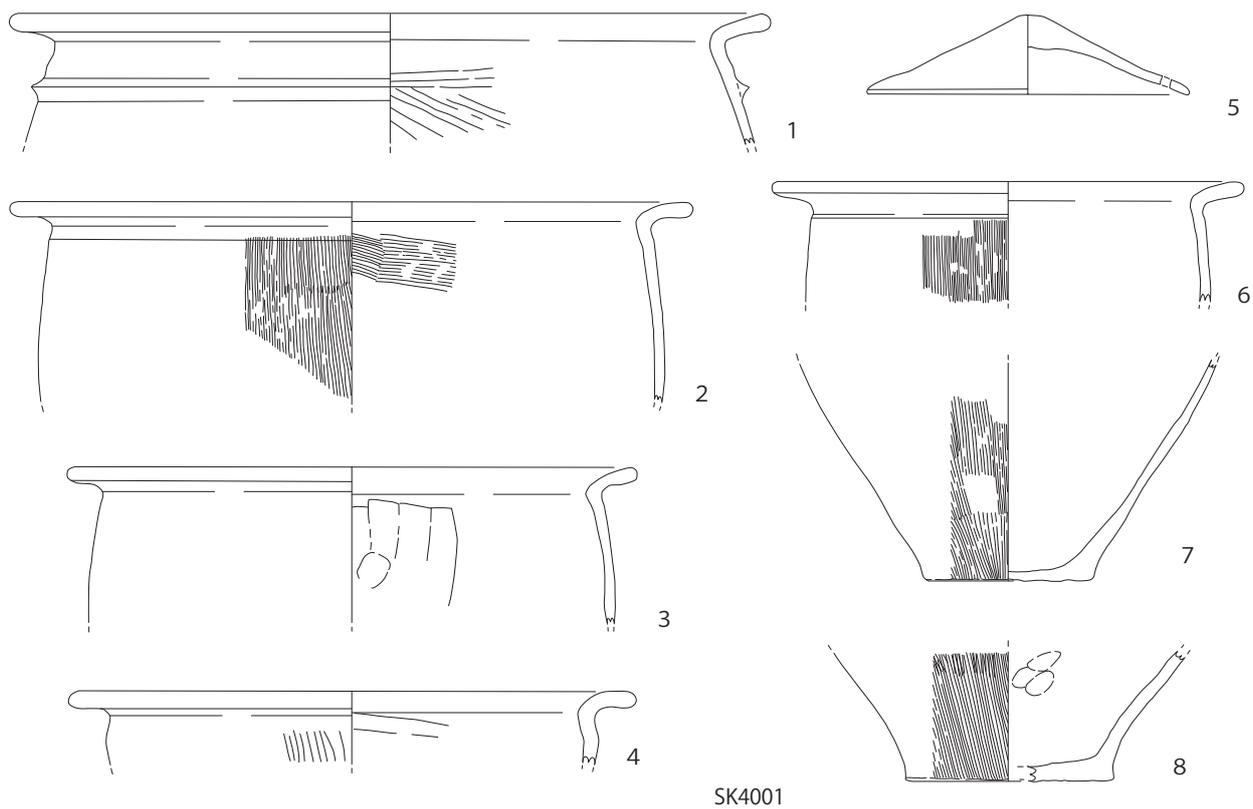


图 16 土坑出土遗物 (1/4 · 1/3)

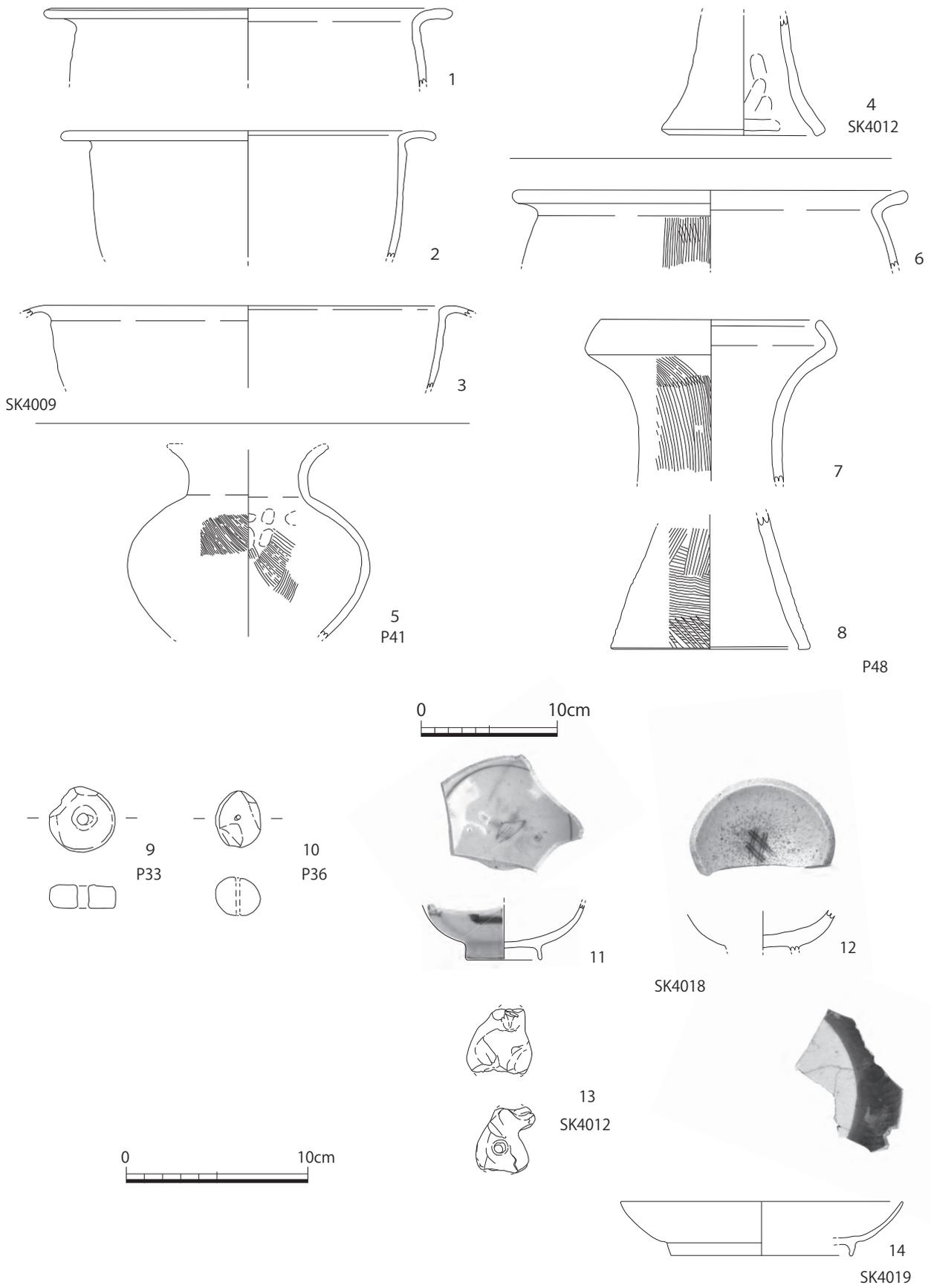


図17 土坑・ピット出土遺物 (1/4・1/3)

表4 内畑遺跡4区 出土遺物

番号	遺構	種別	器種	法量			色調 () 内面	調整	備考	登録番号
				口径	器高	底径				
図14-1	SD4017	白磁	椀	—	<4.3>	4.4	暗オリーブ色 外面：量付袖掻取 内面：—	—	150240	
図14-2	SD4017	白磁	椀	(7.8)	4.8	(3.4)	乳白色 外面：量付袖掻取 内面：—	—	150237	
図14-3	SD4017	白磁	椀	(7.4)	4.5	(3.2)	乳白色 外面：量付袖掻取 内面：—	—	150238	
図14-4	SD4017	白磁	椀	(6.2)	4.0	2.5	灰白色 外面：量付袖掻取 内面：—	—	150239	
図14-5	SD4017	瓦器	片口鉢	(23.0)	<5.5>	—	灰色～褐灰色 (灰色) 外面：注口ナデ、他ハケ 内面：ハケ	—	150232	
図14-6	SD4017	瓦	丸	長さ <9.2>	幅 <7.4>	厚さ 2.0	灰色 外面：— 内面：—	—	150233	
図14-7	SD4017	瓦?	—	長さ <12.0>	幅 <8.3>	1.1	褐灰色 外面：ハケ 内面：ハケ	—	150231	
図14-8	SD4017	瓦?	—	長さ <13.8>	幅 <8.2>	0.9	表：灰黄褐色 裏：暗褐色 外面：ハケ 内面：ハケ	—	150241	
図15-1	SH4005	弥生土器	鉢	(10.4)	<5.9>	—	橙色 (褐色) 外面：ナデ 内面：ナデ	口縁部 1/5 残存	150210	
図15-2	SH4007	弥生土器	甕	(20.4)	<9.2>	—	浅黄褐色 外面：口縁ナデ、胴部ハケ 内面：ナデ	—	150209	
図15-3	SH4010	弥生土器	甕	(32.2)	<2.4>	—	橙色 外面：ヨコナデ、口縁端部に刻み目 内面：ヨコナデ	—	150219	
図15-4	SH4010	弥生土器	袋状 口縁壺	(25.2)	<6.0>	—	橙色 外面：口縁ヨコナデ、ハケ 内面：ハケ後ナデ	—	150224	
図15-5	SH4010	弥生土器	二重 口縁壺	17.0	<10.2>	—	明黄褐色 外面：口縁ヨコナデ、ナデ 内面：ナデ	—	150218	
図15-6	SH4010	弥生土器	壺	(17.2)	(17.6)	(7.3)	にぶい黄褐色 外面：口縁ヨコナデ、胴部ハケ後ナデ 内面：胴上位ナデ、下位指頭圧痕	内外面ともわずかに丹が残る	150228	
図15-7	SH4010	弥生土器	鉢	(26.2)	(12.0)	—	褐灰色 外面：口縁端部ヨコナデ、胴上半ハケ、 下半ナデ 内面：ハケ	—	150227	
図15-8	SH4010	弥生土器	甕	—	<4.0>	(9.5)	浅黄褐色 (灰白色) 外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	—	150223	
図15-9	SH4010	弥生土器	壺	—	<6.5>	(6.0)	明黄褐色～黒色 (明応褐色) 外面：ハケ後ナデ 内面：工具ナデ	—	150225	
図15-10	SH4010	弥生土器	壺	—	<8.0>	(7.0)	にぶい赤褐色 にぶい黄褐色 外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	—	150221	

番号	遺構	種別	器種	法量			色調 () 内面	調整	備考	登録番号
				口径	器高	底径				
図 15-11	SH4010	弥生土器	鉢	8.7	2.8	—	黄褐色 外面：指オサエ 内面：指オサエ	—	150229	
図 15-12	SH4010	弥生土器	手づくね 土器	—	<4.5>	3.6	黄褐色 外面：ナデ、指オサエ 内面：ナデ	—	150220	
図 15-13	SH4010	弥生土器	甗	—	<7.4>	—	にぶい黄橙色 外面：口縁ヨコナデ、ハケ後ナデ 内面：ナデ	—	150222	
図 15-14	SH4010	弥生土器	器台	—	<8.7>	(14.2)	にぶい黄橙色 外面：ハケ 内面：ナデ、裾部ハケ	—	150226	
図 15-15	SH4014	須恵器	杯蓋	(14.0)	<4.4>	—	灰色 外面：回転ヨコナデ、ケズリ 内面：回転ヨコナデ	—	150242	
図 16- 1	SK4001	弥生土器	甗	(40.2)	<7.0>	—	橙色 外面：ナデ、凸帯ヨコナデ 内面：工具ナデ	—	150195	
図 16- 2	SK4001	弥生土器	甗	(36.0)	<10.7>	—	橙色 外面：口縁ヨコナデ、ハケ後ナデ 内面：ハケ	—	150200	
図 16- 3	SK4001	弥生土器	甗	(30.0)	<8.3>	—	橙色 外面：口縁ヨコナデ、胴部ナデ 内面：工具ナデ、指オサエ	—	150194	
図 16- 4	SK4001	弥生土器	鉢	(30.0)	<3.9>	—	にぶい橙色 外面：口縁ヨコナデ、ハケ後ナデ 内面：工具ナデ	—	150197	
図 16- 5	SK4001	弥生土器	蓋	(17.0)	4.2	—	橙色 (明黄褐色) 外面：ヨコナデ 内面：ナデ、指オサエ	内面黒班あり	150201	
図 16- 6	SK4001	弥生土器	甗	(25.0)	<6.4>	—	橙色 外面：ヨコナデ、ハケ 内面：ナデ	—	150196	
図 16- 7	SK4001	弥生土器	甗	—	<11.6>	(9.0)	灰黄褐色 (にぶい黄褐色) 外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	—	150193	
図 16- 8	SK4001	弥生土器	甗	—	<7.0>	(11.1)	明黄褐色 (にぶい黄褐色) 外面：ハケ 内面：指オサエ、ナデ	内面黒班あり	150192	
図 16- 9	SK4006	弥生土器	甗	(31.0)	<2.9>	—	浅黄褐色 外面：ナデ 内面：ナデ	—	150211	
図 16-10	SK4006	弥生土器	鉢	(33.4)	<4.5>	—	浅黄褐色 外面：口縁ヨコナデ、ナデ 内面：ナデ	—	150203	
図 16-11	SK4006	弥生土器	壺	(14.0)	<5.7>	—	浅黄褐色 外面：口縁端部ヨコナデ、ナデ 内面：口縁ナデ、ハケ	—	150213	
図 16-12	SK4006	弥生土器	壺	—	<4.6>	(10.0)	橙色 外面：ハケ 内面：ナデ	—	150214	
図 16-13	SK4006	土師器	壺	(16.4)	<4.8>	—	橙色 外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ	—	150212	
図 16-14	SK4006	須恵器	杯蓋	(15.8)	<3.2>	—	灰白色 外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	—	150207	

番号	遺構	種別	器種	法量			色調 () 内面	調整	備考	登録番号
				口径	器高	底径				
☒ 16-15	SK4006	須恵器	杯身	(13.0)	<3.6>	—	灰色	外面：回転ヨコナデ、ヘラケズリ 内面：回転ヨコナデ	—	150204
☒ 16-16	SK4006	須恵器	杯身	(11.0)	<3.7>	—	灰色	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	—	150205
☒ 16-17	SK4006	須恵器	杯身	(11.0)	<3.9>	—	灰色	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	—	150206
☒ 17- 1	SK4009	弥生土器	鉢	(30.0)	<5.8>	—	明褐色 (橙色)	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ	—	150215
☒ 17- 2	SK4009	弥生土器	鉢	(27.6)	<9.4>	—	橙色	外面：ナデ 内面：ナデ	—	150216
☒ 17- 3	SK4009	弥生土器	鉢	<33.0>	<6.1>	—	橙色	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	—	150217
☒ 17- 4	SK4012	弥生土器	器台	—	<8.9>	(12.0)	浅黄橙色	外面：ナデ 内面：ナデ、指オサエ	—	150243
☒ 17- 5	P41	弥生土器	壺	(11.8)	<14.4>	—	にぶい褐色 (橙色)	外面：ナデ、胸部ハケ 内面：ナデ、胸部指オサエ、ハケ	胸部に黒班あり	150250
☒ 17- 6	P48	弥生土器	甕	(29.0)	<5.8>	—	橙色 (明褐色)	外面：口縁ヨコナデ、ハケ 内面：ナデ	内面黒班あり	150248
☒ 17- 7	P48	弥生土器	袋状 口縁壺	(16.2)	<12.0>	—	にぶい黄橙色	外面：ハケ 内面：口縁ヨコナデ、ナデ	—	150230
☒ 17- 8	P48	弥生土器	器台	—	<10.0>	14.7	明黄褐色土	外面：ハケ、裾部タタキ 内面：ナデ	—	150249
☒ 17- 9	P33	弥生土器	紡錘車	直径 3.6	厚さ 1.3	穿孔径 9.6	にぶい黄橙色	ナデ	ほぼ完形	150235
☒ 17-10	P36	弥生土器	土玉	長さ 3.1	幅 2.4	—	橙色	ナデ	—	150236
☒ 17-11	SK4018	染付	皿	—	<3.1>	4.2	—	外面：量付釉掻取 内面：—	—	150245
☒ 17-12	SK4018	白磁	皿	—	<2.3>	—	—	外面：施釉 内面：施釉	—	150244
☒ 17-13	SK4012	土製品	猿形 土製品	高さ <3.7>	幅 3.1	厚さ 2.9	浅黄橙色	ナデ	—	150247
☒ 17-14	SK4019	染付	皿	(16.6)	3.0	(10.0)	—	外面：量付釉掻取 内面：—	—	150246

第4章 まとめ

内畑遺跡は、轟木川左岸の低位段丘上に立地する。本遺跡では、これまでに2次の本調査が実施され、遺跡南側の丘陵先端部付近で弥生時代の墳墓跡が確認されていた。1次調査で検出した甕棺墓群のなかにはガラス製勾玉・小玉 1969 点、鉄刀子、水晶製丸玉・ガラス製小玉 16 点を副葬した甕棺墓を確認した。一方、遺跡北側では、確認調査で溝跡を確認するなど墳墓と同時期とみられる集落の存在が明らかになっている。また、2次調査では古墳時代とみられる土坑や溝跡の集落跡が確認されている。本調査区は、遺跡の北側に位置しており、弥生時代中期～後期の住居跡を中心とした集落跡と古墳時代の集落跡を検出した。集落が営まれた時期などは、周辺の状況と合致するものであり、本遺跡が所在する低位段丘上における土地利用の在り方の一端を知ることができた。

瓜生野保と瓜生野村

今次調査では、弥生時代や古墳時代の遺構とともに、近世の溝跡を検出できたことは大きな成果の一つといえる。鳥栖市元町は、近世以前から所在した瓜生野村が由来となっている。近世には瓜生野村とは別に、藤木村のうちに瓜生野町（現本通町、本町）が町立てされ、近代以降、瓜生野村を瓜生野元町と呼称するようになったとされている。

瓜生野村が成立した時期は明らかではないが、正応5年（1292）5月8日の河上神社文書に記される肥前国内荘園・公領のうちに公田分として瓜生野保 79 町 4 丈が挙げられている（『鎌倉遺文』17984）。集落は、おそらくそれに近い時期に成立していたと考えられる。すでに述べたとおり、現在の鳥栖市東半部と基山町は、江戸時代には対馬宗家領であった。元禄期に描かれたとみられる「養父郡瓜生野村絵図」（長崎県立対馬歴史民俗資料館所蔵）が詳細な村絵図として残っている。その範囲は、現在の鳥栖市元町よりもやや広く、大まかな範囲は、北は鳥栖市役所付近から南は鳥栖小学校付近までであり、瓜生野保は、この範疇に含まれているとみられ、その集落の所在地は中世から近世まで継続していたのではなかろうか。

では、その集落がどこに所在したか、先の村絵図を見ると、長崎街道よりも南側、鳥栖小学校付近まで広がっている様子が描かれている。すでに述べたとおり、本調査区の北側には旧長崎街道がとおっており、まさに近世の瓜生野村の集落の北端にあたる。

この集落の北端にあたる位置で、SD3001 と SD4017 を検出し、集落の一部ではあるがその有り様を垣間見ることができた。すなわち、南北に直線的に伸びる SD3001 と南北と東西に鍵の手に曲がる SD4017 の距離は約 40m であり、整然と家屋が立ち並ぶような様相を呈している。

また、SD4017 の西端付近では、溝の床面付近から固くしまった黄色粘土層を検出した。付近に柱穴を確認することはできなかったが、橋のような構造物がかけられていた可能性も考えられる。

ちなみに、4区調査区の東側を南へ延びる道路は、南へ進むと老松神社と菅公伝説のある妙善寺のわきを通って今泉町へとつながっているが、先の村絵図にも描かれている道である。

近代のガラス瓶から見えるもの

今次調査区には、現代の上下水道をはじめ近代から現代にいたる掘削が見られた。これらは、報告では攪乱として取り扱った。しかし、本調査の速報的な位置づけとして平成 26 年度に開催した発掘調査成果展において展示した、攪乱から出土したガラス瓶について触れておく。

前述のとおり 3区と 4区のそれぞれの調査区の北側では近代以降とみられる排水管を埋設した溝跡を検出した。3区で検出した溝跡には、一部にコンクリート製の土管が埋設されていた。それとともに陶磁器などの生活雑器や大量の瓦が出土したが、4区の溝跡からは生活雑器に混じってガラス瓶が出土した。

ガラス瓶は、インク瓶と味の素の瓶がそれぞれ 2 個ずつである。

インク瓶の底には「サムライ☆」と「SSS」のエンボス（浮彫加工）が見られる。それぞれ、サムライ商

会と細沼株式会社が発売したサムライインキとサンエスインキの2オンス瓶である。前者は、底径 4.6cm、高さ 5.0cm である。後者は、底径 4.6cm、高さ 5.2cm である。大正期から明治初期ごろのものとみられる。

万年筆は、明治時代中期頃に輸入されたが、本格的に普及したのは大正時代になってからである。その頃、インクメーカーが乱立し、これらの小瓶もその中のひとつで、学生や万年筆を常用する職業の家があったことがうかがえる。

つぎに、味の素の瓶2個は、瓶底に右から「味の素」のエンボスが見られる。底部の長径 4.3cm、短径 2.1cm の八角形で高さ 12.7cm のものと、同じく底部長径 4.3cm、短径 2.0cm の八角形で高さ 11.8cm のものである。味の素は、現在も調味料の一つとして家庭の食卓に備えられているが、明治 42 年（1909）に 40 銭で発売された。出土した瓶は、その発売当初のモデルである。しかし、味の素は価格の割高感などから消費者になかなか浸透しなかったという。

これらのガラス瓶から、大正時代の生活をうかがうことができる。



味の素の小瓶

インク小瓶（左 サムライ、右 サンエス）



1. 3, 4区全景 (西上空から)



2. 3, 4区全景 (南上空から)

写真図版 2



↑ 1. 3区全景
(南から)
← 2. 3区全景
(北上空から)





1. SD3001(北から)



2. SD3008・SH3009(南から)



3. SH3003(東から)



4. SH3004(手前)・SH3005(奥)



5. SK3002 土層(東から)



6. SK3002 土層(南から)



7. SK3002(東から)



8. SK3006(南から)

写真図版 4



1. SD3001 出土遺物



4. SH3007 出土遺物



6. SK3002 出土遺物



2. SH3003 出土遺物



3. SH3004 出土遺物



5. SH3009 出土遺物



1. 4区全景（北上空から）



2. 4区弥生時代集落集中部（西から）

写真図版 6



1. SD4017 遺物出土状況 (東から)



2. SD4017 (西から)



3. SD4017 黄色粘質土検出状況 (南から)



4. SD4017 土橋部 (?) 土層 (南西から)



5. SH4002 (西から)



6. SH4005 (北東から)



7. SH4007 (北東から)



8. SH4010 (西から)



1. SH4014 (南西から)



2. SK4002 (北から)



3. SK4003 (南東から)



4. SK4004 (西から)



5. SK4006 (北東から)



6. SK4013(左)・SK4012(右)



7. SK4018 (西から)



8. SK4019 (西から)

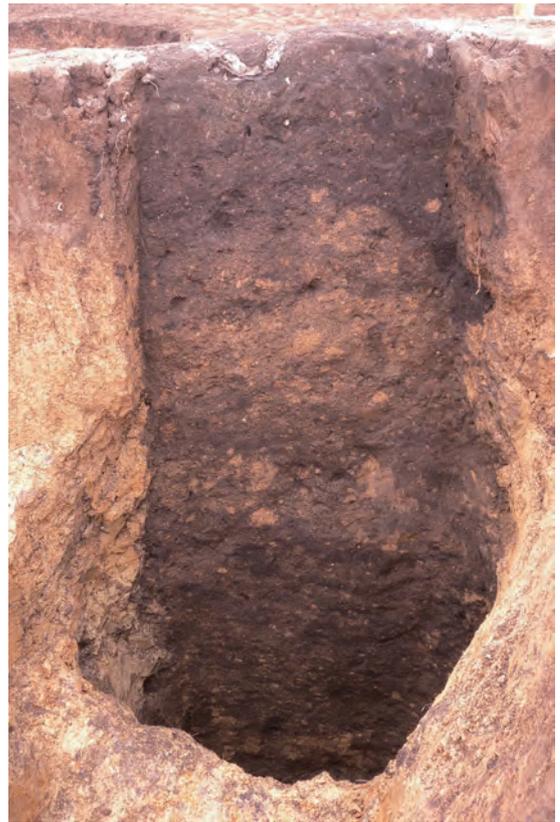
写真図版 8



1. SK4011 (西から)



2. SK4011 完掘状況 (東から)



4. SK4011 土層 (上部、西から)



3. SK4011 床面付近炭化物 (西側)



5. SK4011 土層 (下部、西から)



6. SD4017 出土遺物





1. SD4017 出土遺物



2. SH4005、SH4007 出土遺物



3. SH4010 出土遺物



4. SH4014 出土遺物



5. SK4012 出土遺物



6. SK4012 出土遺物



1. SK4001 出土遺物



2. SK4006 出土遺物



6. P48 出土遺物



3. P33 出土遺物



4. P36 出土遺物



5. P41 出土遺物



7. P48 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	うちはたいせき							
書 名	内畑遺跡							
副 書 名	共同住宅建設、宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 85 集							
編著者名	大庭 敏男							
発行機関	鳥栖市教育委員会							
所在地	〒 841-8511 佐賀県鳥栖市宿町 1118 番地 Tel.0942-85-3695							
発行年月日	平成 28 (2016) 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
うちはたいせき 内畑遺跡 3・4区	さがけんとうすしもとまち 佐賀県鳥栖市元町 あざうちほた 字内畑 1092-8 ほか	412031	175	33° 22' 12"	130° 30' 41"	20140507 ～ 20140724	800m ²	共同住宅 宅地造成
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡	弥生 古墳 近世	住居・土坑・溝		弥生土器 土師器・須恵器 陶磁器		弥生時代の集落跡 古墳時代の集落跡 近世の集落跡	

鳥栖市文化財調査報告書第 85 集

内畑遺跡

—共同住宅建設・宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 28 年 3 月 31 日 発行

発行 鳥栖市教育委員会
佐賀県鳥栖市宿町 1118 番地

印刷 (株)シオン 三橋印刷
佐賀県鳥栖市蔵上町 4 丁目 152 番地